

1 2 月 6 日 ( 第 3 号 )

# 平成24年第5回豊能町議会定例会会議録目次

平成24年12月6日（第3号）

出席議員	.....	1
議事日程	.....	2
開議の宣告	.....	3
( 一般質問 )		
公明党	山下 忠志	3
	高橋 充徳	10
無所属の会	秋元 美智子	21
緑豊クラブ	西岡 義克	42
日本共産党	高尾 靖子	51
散会の宣告	.....	61

## 平成24年第5回豊能町議会定例会会議録（第3号）

年 月 日 平成24年12月6日（木）

場 所 豊能町役場議場

出席議員 14名

1番	橋本 謙司	2番	井川 佳子
3番	高橋 充徳	4番	岩城 重義
5番	小寺 正人	6番	山下 忠志
7番	永並 啓	8番	竹谷 勝
9番	福岡 邦彬	10番	秋元美智子
11番	平井 政義	12番	高尾 靖子
13番	西岡 義克	14番	川上 勲

欠席議員 0名

地方自治法第121条の規定により議会に出席を求めた者は、次のとおりである。

町 長	田中 龍一	総務部長	乾 晃夫
教 育 長	小川 照夫	建設環境部長	川上 和博
生活福祉部長	上林 勲	教 育 次 長	桑田 良彦
上下水道部長	高 秀雄	会 計 管 理 者	上西 悦子
消 防 長	西本 好美		

本会議に職務のため出席した者は、次のとおりである。

議会事務局長	乾 利昭	書 記	杉田 庄司
書 記	高橋 欣也		

議事日程

平成24年12月6日(木) 午前9時30分開議

日程第 1 一般質問

開議 午前9時30分

○議長（福岡邦彬君）

皆様、おはようございます。

ただいまの出席議員は14名であります。定足数に達しておりますので、これより本日の会議を開きます。

本日の議事日程は、お手元に配付のとおりでございます。

日程第1「一般質問」を行います。

先日に引き続き、順次発言を許します。

質問者は、質問者席に登壇して質問を行ってください。

公明党の一般質問を行います。

持ち時間は、質問及び答弁を合わせて80分とします。

山下忠志議員を指名いたします。

山下忠志議員。

○6番（山下忠志君）

おはようございます。

6番・公明党の山下忠志でございます。きょうは、昨日と違い暖かく、頭のほうが少しぼやっとしておりますが、しっかりと一般質問をしていきたいと思っております。

町長におかれましては、昨日は生まれて初めての御経験だと思います。きょうはしっかりと、自分の言葉で結構ですので、自分の考えをしっかりとお答えいただきますよう、まず冒頭をお願いを申し上げます。

それでは、一般質問をさせていただきます。

まず、通学路についてでございます。

田中新町長も、子育て支援については、所信表明でも重要な課題とされております。また、結びでは、「赤ちゃんからお年寄りまで、いつまでも安心して暮らせる町の実現」とされております。

きょうは、未来を託す子どもたちの安心・安全面について、豊能町の通学路の現

状確認はどのように把握されているのか、まずお伺いいたします。よろしく申し上げます。

○議長（福岡邦彬君）

答弁を求めます。

小川教育長。

○教育長（小川照夫君）

おはようございます。お答えいたします。

ことしに入りまして、全国で、お隣の亀岡をはじめ通学路に車が突っ込むという、そういう大変残念な事件が起きておりまして、国のほうから全小学校に対する調査が行われました。

この調査結果については、先月発表されておりますとおり、全国で危険と思われる箇所が約6万カ所、学校数でいきますと、約2万校において危険箇所があったということでもあります。

本町におきましては、この夏、学校、それからPTA、見守り隊の方々の御協力を得て全ての学校で調査をいたしました結果、小学校4校で23カ所、危険と思われる箇所があるということで、国に報告をしておるところでございます。

○議長（福岡邦彬君）

山下忠志議員。

○6番（山下忠志君）

我が豊能町におきましては、23カ所あるということでございますので、これについてもしっかりと対策をとっていかねばならないと思っております。その辺については、どのように今後進めていかれるか、お話をいただきたいと思っております。

○議長（福岡邦彬君）

答弁を求めます。

小川教育長。

○教育長（小川照夫君）

お答えいたします。

まず、現在進めておりますのは、この件

につきましては、国土交通省、文部科学省、警察庁の3省庁の間で、これから取り組まれていくものと思っております。

本町の関係といたしましては、既に池田土木事務所、豊能警察署、それから町職員のもとでこの協議が行われました。

内容については、それぞれ所管がございますので、例えば歩道の拡幅、こういったことは池田土木事務所が考えていただく、それから制限速度の規制の看板、それからパトロールの巡視、こういったことは豊能警察署ということで、今、その役割分担と申しましょうか、その辺のところを協議しているところでございます。

いずれにいたしましても、国のほうが、恐らく25年度予算になろうかと思っておりますけれども、そういった計画がまとも次第、対応していくということでございますので、本町でできることは、もう既にその5カ所については本町でやっておりますけれども、残りの18カ所につきましては、そういった国の動向を注視しながら一緒にやっていきたいというふうに考えております。

○議長（福岡邦彬君）

山下忠志議員。

○6番（山下忠志君）

国の対応について、これからしっかりとそれに合わせてやっていくということでございますが、ここで一つ具体的に、私、気になったところがございます。

先般の豪雨の際、東能勢小学校東隣、いろいろ問題がある点でございますが、側溝の水が大変あふれたということで、その上におられる業者も、土のうを置いたりして対策をとられました。その辺、その原因はどのようなものであるか、まずお伺いしたいと思っております。

○議長（福岡邦彬君）

答弁を求めます。

桑田教育次長。

○教育次長（桑田良彦君）

お答えいたします。

10月23日の早朝に発生した豪雨により、東能勢小学校隣接道路と府道110号線の側溝でございまして、雨水がかなり噴水のように歩道へ出ておったという事実がございました。

この件につきまして、原因といたしまして、11月19日にですけれども、府道敷きまで管轄が池田土木事務所でございますので、池田土木事務所と教育委員会と建設にも技術的なことを聞きたいということで、三者で対策を協議いたしました。原因として、三つほど考えられております。

まず1点は、隣接進入道路と府道110号線が非常に直角になっております。それと、進入道路自身かなりの急勾配で、側溝も急勾配になっておるということで、雨水の流速が非常に強いということでございます。

その流水が下に流れてきますけれども、そこで受けるますの入口が狭いのと小さいということが原因ということを確認しておりますので、今後、まず西側の側溝、学校側なんですけれども、学校側の側溝、もう一つが東側の側溝、能勢の里でございまして、府道と隣接管理道の流れ落ちる雨水を受ける柵を設置して、流速を弱めてから府道の側溝に流し込む対策を講じる予定をしております。実際、その対策工事を行うのは、池田土木事務所でございます。

日程といたしましては、早ければ年内、おくれれば年度内には必ずやっていただくことを確認しております。

以上です。

○議長（福岡邦彬君）

山下忠志議員。

○6番（山下忠志君）

早速対策をとっていただくというのはありがたいことですが、その際に、これから先のこともしっかりと踏まえていただきたいと思います。

昨今の豪雨は、今までにないものでございます。今までゲリラ豪雨とか、最近では、それを越して爆弾豪雨とか言われています。その辺も加味していただいて、東能勢小学校だけじゃなくして、光風台小学校のとも同じように急勾配であったり、また枯れ葉がたまったり、それだけではなくて、柵の容量が足らなかったということがありますので、日ごろからその辺をしっかりと点検していただいて、町長も言われていますけれども、交付金の活用ということも言われていますので、常々にそういう豊能町の危ない箇所をしっかりと、今回は通学路でございしますが、しっかりと把握して、交付金が出たときに、もうそれこそ日本で一番最初に取りに行くというぐあいに対処していただく。

よく、平たい言葉でございしますが、願いをかなえるには流れ星に願いを込めるとかなうということがあります。あれは、理由があるんですね。皆さんも、常々日ごろから流れ星というのはあつという間ですね。見た途端に、もう次に流れます。日ごろからそういう問題意識を持って、願いを持っているから、事に当たったときに、流れ星を見たときに、願いができるということです。やはり、これからもしっかりと通学路、特に未来に託す子どもたちの安全・安心をしっかりと確保していただくことを要望しておきます。この件は、これで終わらせていただきます。

次に、職員の定数についてですが、町長も所信表明でしっかりとこの辺も言っておられます。所信表明で、全事業を見直し、「適正人員を把握し云々」とあります。こ

の適正人員の把握は、どのような手法で把握されるのか、まずお聞きしたいと思います。

○議長（福岡邦彬君）

答弁を求めます。

田中町長。

○町長（田中龍一君）

皆さん、おはようございます。

山下議員の質問に対してお答えいたします。

今の件につきましては、昨日申しましたように、平成26年度から、全事業に対して事業評価をしていきたいと思っておりますので、そういった中から考えていったりでありますとか、あと今後、私、全ての課を訪問して、今どういった業務をしていて、現状はどうであるかということヒアリングしようと思っておりますので、そういったことを通して検討してまいりたいと思っております。

以上でございます。

○議長（福岡邦彬君）

山下忠志議員。

○6番（山下忠志君）

この適正人員を把握するのに、ヒアリングだけでは心もとないと思います。これには、やはり科学的な分析とかなければ、全事業に分けて、以前にも私、これ、質問したことがございます。また、提案もしたこともございます。これは、やはり科学的な手法を持って、例えば動作分析をもって、ここの部門は何名必要なんだということをしつかりとやっていただきたいと思います。

いろんなさまざまな手法があると思います。それを、まずその手法、どういう手法があるのか、その辺もしっかりと勉強されて、それをやって、ただヒアリングだけで、ここの部門は5名要るんです、今までから5名なんですと、それで済んでいては、適

正な人員把握はできないと思います。

例えば、一つには、メモーションスタディーとか、いろいろあります。それは簡単なことです。お金も何も要らないんです。この表1枚、鉛筆があって、1時間ごとに自分は何をしているかというのをメモをとっていくんです。みずからが管理していくんですね。そういう手法もございます。

これは大変古い、私が勤めていたころでございますので、もう30年も前の話でございます。それから大変進んでおると思っています。お金もかからないし、そして勤勉な日本人向けだと思います。うそはつかない日本人、これをしっかりとこういう方法もございますので、またそれ以外にも軽減法というのが、軽減法も決してばかにしてはいけないと思います。これもあります。

まず、全事業を洗い出して、それに基づいて適正人員を把握すると、こういう方法もございますので、その辺、その手法をどのように今後とっていかんなんか、その辺、もう一度確認させていただきたいと思いません。

○議長（福岡邦彬君）

答弁を求めます。

田中町長。

○町長（田中龍一君）

お答えします。

先ほどおっしゃっていただいたような方法も検討しながら、今、やはり考えておりますのは、他の市町村で同じような部署でどの程度の人員が来ているのかということも、やはりそれを基本にしながら、さまざまな方法も検討してまいりまして、今後、やってまいりたいと思いません。

以上でございます。

○議長（福岡邦彬君）

山下忠志議員。

○6番（山下忠志君）

他の市町村を参考に言いますが、やはり他の市町村にない、豊能町はこれから一歩進んだ手法を持ってやるというのが私は望ましいと思いません。これは、私の考えでございます。

また、それから適正人員、よく言われるのは、他の市町村と比べて、同じ市町村の形態のところはない、二つと同じところはないと思いません。

豊能町は、よく言われるように、東西に分かれております。他の市町村を通らなければ行けない。こういうことも踏まえて、同じところはございません。ですから、それを科学的な手法をもってやっていただくことをお勧めしておきます。

そして、ここで適正人員が把握された。よく言われるのは、財政的な面から、人員が多い、人員が多いじゃなくして、やっぱり事業の内容から私は適正人員を把握するのが一番ベターではないかと思っております。

この辺もしっかりと、そしてその事業を、今までは公がやっている、町がやっているが、これは民間に委託したほうがいいのかという仕分けも、今後、その適正人員を把握された上で、財政面も加味しながら、今度は地に足の着いた事業仕分けをしっかりと、決してパフォーマンスに捉えることなく行っていただきたいと思いません。その辺も御回答いただければありがたいと思いません。

○議長（福岡邦彬君）

答弁を求めます。

田中町長。

○町長（田中龍一君）

お答えいたします。

事業仕分けに当たりましては、議員御指摘のとおり、やはりその事業が、本来、本町でやるべきものなのか、民間でやるべき



ものなのか、また市民との協働、NPOとの協働でやるべきものなのか、それとも場合によっては不必要なものなのか、そういったことも考慮しながらやってまいりたいとは思っています。

以上でございます。

○議長（福岡邦彬君）

山下忠志議員。

○6番（山下忠志君）

この辺につきましては、しっかりとやっていただきたいと思っております。

次に、豊能町の環境についてでございます。

豊能町は、ガソリンスタンドもパチンコ屋も何もないところでございますが、それが魅力の、私、また一つではないかと思っております。

緑豊かな豊能町の環境が、近年、あちこちで採石や開発で失われている。町としては、その現状をどのように把握されているのか、まずお聞きしたいと思います。

○議長（福岡邦彬君）

答弁を求めます。

川上建設環境部長。

○建設環境部長（川上和博君）

お答えします。

町内での採石や開発行為というのは具体的にどういうものを指すのかというのは、いろいろあると思っておりますが、数カ所あるのではないかと。そのうち、我々が所管しております岩石採取計画の認可を与えている件数は1件でございます。

○議長（福岡邦彬君）

山下忠志議員。

○6番（山下忠志君）

1件しかないんですか。それでは、私が見たところだけでも、あそこが豊能町かどうか知りませんが、希望ヶ丘より上のところは、あれは茨木なんですね。その

ほかいろいろあると思っております。2カ所以上はあるんじゃないかと思っております。

この辺も、開発とは違う、よく採石をやられているんですけども、真砂土をとって、今度は、そこへサンドを埋めていく。その事業で二度おいしい、グリコではないですけども、そのような、それが今、法規制で対処できないのか、その辺、お聞きしたいと思います。

○議長（福岡邦彬君）

答弁を求めます。

川上建設環境部長。

○建設環境部長（川上和博君）

お答えします。

本町の中の行為の中で、法規制で考えられますのは、採石法と砂防法、それから森林法、これらの法令による規制が考えられると思っております。

それで、砂防法、砂防指定地域内による行為に関する制限に関する法律ですが、それと森林法、これは都道府県が指導権限があり、採石法にありましても、豊能町には、採石法第33条の岩石採取計画の認可業務が平成23年1月から豊能町に事務移譲されているという状況でございますので、現状では、町として直接法令に抵触するのではないかというような指導が行える立場ではないというのが状況でございます。砂防法・森林法並びに採石法のその他の法令には、都道府県の指導権限があるというふうに理解しておるところでございます。

以上です。

○議長（福岡邦彬君）

山下忠志議員。

○6番（山下忠志君）

指導・監督の権限がないということなんですけども、権限がなければ、なくても、これは豊能町にあることなんですね。これは、関係官庁に、やはり私は連携をとって

進言して進めるべきだと、そこと連携が必要ではないかと思えます。

また、先般、豊能町都市計画審議会に出席したんですけども、その中でも、自然環境活用地区とか、田園環境整備地区とかというぐあいに位置づけられているんですね。これを守っていくためにも、そういう関係官庁ときっちり協力していくべきだと思いますが、その辺はいかがでございましょうか。

○議長（福岡邦彬君）

答弁を求めます。

川上建設環境部長。

○建設環境部長（川上和博君）

お答えします。

関係機関との連携の話でございしますが、今現在、私どもにも住民の方からいろいろと苦情なり、どうなっているのですかという問い合わせが頻繁に電話があったり、訪問があったりしているわけでございます。

それらについては、今先ほど申し上げたように、直接指導権限がないのでというようなことは申し上げておりますので、我々としては、監督官庁である大阪府、具体的には、大阪府の池田土木事務所、それから北部農と緑の総合事務所、それから大阪府の河川砂防課、それと我々がどのように指導を進めていこうかという話し合いを行っておるのは事実でございします。

しかし、直接は、やはり許認可権限を持っているところを先頭に、我々が日ごろ思っていること、それから住民からいろいろと受けている苦情等について、こういうふうに対処してほしい、迅速にこう考えてほしい、こうやってほしいという協議はやっております。

それから、先般の都市計画審議会での議論のお話でございしますが、あれは今回、都市計画マスタープランの改定に伴う審議会

の開催をお願いしたところで、いろんな意見が出ているということは承知しておるところでございます。

○議長（福岡邦彬君）

山下忠志議員。

○6番（山下忠志君）

次は、町長にお聞きしたいんですけども、こういう現場を、今、就任されてから2カ月になるんですかね、見られたことはございますでしょうか。

○議長（福岡邦彬君）

答弁を求めます。

田中町長。

○町長（田中龍一君）

お答えします。

見たことはございます。

以上でございます。

○議長（福岡邦彬君）

山下忠志議員。

○6番（山下忠志君）

どう感じられましたでしょうか、見られたら。

○議長（福岡邦彬君）

答弁を求めます。

田中町長。

○町長（田中龍一君）

非常に山が積み上がっているということで、見た目もよくないというふうには思いました。

以上でございます。

○議長（福岡邦彬君）

山下忠志議員。

○6番（山下忠志君）

また観点を変えて言いますが、権限はなくても、やはり働きかけるには、いろんな情報が必要だと思うんですね。あそこにダンプカーが1日に何台通っているか、その辺、チェックされたことがありますでしょうかね。

○議長（福岡邦彬君）

答弁を求めます。

田中町長。

○町長（田中龍一君）

お答えいたします。

済みません、チェックしたかどうかは、

私は今、認識はしておりません。

担当部長からお答えいたします。

○議長（福岡邦彬君）

権限外のことはしゃべらないでください。

山下忠志議員。

○6番（山下忠志君）

そしたら、担当の建設部長、いかがでございましょうか。

○議長（福岡邦彬君）

答弁を求めます。

川上建設環境部長。

○建設環境部長（川上和博君）

トラックの台数、ダンプカーの台数は確認しておりません。

○議長（福岡邦彬君）

山下忠志議員。

○6番（山下忠志君）

田中町長も、所信表明でも、また選挙の折にも、住民目線としょっちゅう言っておられると思うんですね。やはり、これは住民の方でもあれだけ通っている。現場を見たと言われたんですが、見ただけではあかんです。少なくとも、やはり住民の方がどう感じておられるか、その立場で物事を判断していく。

私、大体、目線という言葉は嫌いなんですけれども、目線というのは、目がいつているだけなんです。私は、視線が必要だと思います。視線というのは、その物事をしっかり見ていくというのが視線なんです。もともと目線というのは、テレビ業界から生まれた言葉です。視聴者がどのように見ているか、目を合わせていく。ただ、それ

なんです。物を見ているかどうかではなくして、目の位置を言っているだけです。ですから、これは視線が本来が正しい。これは、国語の時間ではございませんので、結構でございますが、その辺が大事なところだと思います。

あそこで立たれて見られたら、どれだけ砂が舞い起こっているか。茨木になるんですけども、茨木のあそこの住民の方の土塀なんか見られたことがありますか。木々ももう真っ白で、土砂がいっぱい。本当に大変な状況、茨木ではありますけども、大変な状況。

また、希望ヶ丘におきましても、4丁目の方なんかは砂がいっぱい、車もあつという間に真っ白けになってしまいます。

そういった状況の中で、一体どれだけ他官庁に情報を与えるにも、お願いするにも、やはりその辺もしっかりと、一日あれば見れるわけですね。

私もこの間、1時間、寒い中、見てきました。そしたら、ダンプカーが、あの10トントラック、ごっついやつが、1時間に何と何台ぐらい通っていると思います。1カ所だけでですよ。23台通っております。計算したら、1日ついて、5時間稼働であれば、昨日も5時ごろ通りましたけれども、まだライトつけて走っております。

そのように、見たら、何トン運ばれているかということがわかると思うんですね。その辺が、町長が言う、住民の目線じゃないでしょうか。その辺も、今後、町長もしっかりとその辺の現場を見て次の行動に移していただきたいと思いますが、いかがでございましょうか。

○議長（福岡邦彬君）

答弁を求めます。

田中町長。

○町長（田中龍一君）



○議長（福岡邦彬君）

答弁を求めます。

乾総務部長。

○総務部長（乾 晃夫君）

おはようございます。

1月7日に箕面森町で行いました豊能地区の3市2町の合同の防災訓練につきましては、平成9年から行っておりました、3市2町による災害時の総合応援協定に基づきまして、広域の応援、あるいは防災関係者、あるいは地域住民が一体となった総合的な震災対策訓練で、災害時における応急対策の連携強化を図ることとともに、広く住民の防災意識の高揚に寄与することを目的にしたところでございます。

今回、以前は、過去3年ぐらいは机上訓練をやってまいりましたけれども、4年ぶりぐらいに、消防とか土木、水道といった部門が、自衛隊や豊能町の建設組合などの関係機関と連携を持ちまして、実践的な訓練を行ったところでございます。

災害時の応急対策について連携を図ることができ、また関西電力、NTTなどの防災関係機関との連携強化を図ることができたというふうに思っているところでございます。

また、豊能町内の自治会、あるいは自主防災組織に参加をしていただき、そういう災害時の実践的な体験をしていただいたということに対しまして、防災意識の向上を図ることができたのではないかとというふうに考えているところでございます。

以上です。

○議長（福岡邦彬君）

高橋充徳議員。

○3番（高橋充徳君）

防災意識の向上ということで、意識的には大事なことなんですね。こういった訓練を重ねることによって、いざというときに

対処ができるというのが、こういった訓練なんですけれども、隔年で行っております机上訓練、これも大事なことなんです。これは、いついっどこで誰がどうやってやるかということ細部まで決めて、これは情報訓練ですから、情報も特にとっていかないかんのが、この防災関係に対しての訓練の一つだろうと思っています。

ですから、今回行った、この自治会との連携、消防との連携、警察との連携、自衛隊との連携、これ本当に重要なことであります。

ですから、そういった経験を生かして踏まえたことを前提として、これからも訓練を重ねていていただきたいと思っておりますので、この点もよろしく願いをしておきますが、反省点もいろいろとあろうと思えますけれども、この中で反省点があったかなかったか、これは成果はあったんですが、反省点があったかなかったかだけ聞きたいと思いますが、どうでしょうか。

○議長（福岡邦彬君）

答弁を求めます。

乾総務部長。

○総務部長（乾 晃夫君）

反省点といたしましては、広報とかホームページに、こういう訓練を行うということでPRをさせていただいたというふうに思っておりますけれども、平日に開催をしたこともございまして、豊能町からの参加者、あるいは見学者に限られていたのではないかなというふうに思っているところでございます。

今度といたしますか、また町内の児童・生徒が参加できなかったというようなこともございまして、今後、豊能町でやるということにまたなりましたら、今度は、子どもや生徒等が、豊能町の生徒が参加できるような形で計画が組めたらというふうに思っ

ておりますので、よろしくお願ひいたします。

○議長（福岡邦彬君）

高橋充徳議員。

○3番（高橋充徳君）

反省点も今聞かせていただきましたけれども、止々呂美学園の子どもたちが緊急応急担架をつくっての搬送、これはやりました。非常にいい訓練だと私は思っておりますが、いろいろと反省点のある中で、どうも豊能町の装備しているものが、復旧に携わる車両について、もっと不備なんです。回転灯を見ても、これはよそから比べると、これはちょっと落ちるなど、これ、回っているのかなど、黄色いのがね。全然見えない。緊急車両というのは、やはり見えるのが緊急車両ですから、復旧に携わる者については、あの車を見て安心をして、復旧に来てくれるんだというのが安心できるんで、これが特になかったのと、あとは一番初めに出た、今現在、どこどこで地震が発生しました。このお粗末なスピーカー、何とも聞こえない。情けないなと思いました。あれが、我が町が主催してやったんですから、ちょっと情けない。冒頭からちょっと寂しい思いをさせていただきました。これは早急に手を打っていただきたいというふうに思っておるんですが、早くこういった、予算の関係もしてきますけれども、早目に手を打って、そういった物の整備というのもしていただきたいと思います。この点、いかがでございましょうか。

○議長（福岡邦彬君）

答弁を求めます。

乾総務部長。

○総務部長（乾 晃夫君）

訓練の冒頭、初めのスタートのところでは放送が聞こえにくかったということで、幾

分、反省をしておるところでございます。

それと、車両の整備ということで、実際、回転灯をつけて走っております車については、古いものと、十五、六年以上もたった車を現在使用しているということでございます。できるだけ財政の許す限り更新はしてまいりたいというふうに思っておりますけれども、一度にはなかなかいかないというのが現状だというふうに認識しておりますので、よろしくお願ひいたします。

○議長（福岡邦彬君）

高橋充徳議員。

○3番（高橋充徳君）

予算のかかることですので、順次、計画をして進めていただきたいと思います。この点、よろしくお願ひをします。

もう一つ気になったのは、訓練の中で、防火水槽からバケツリレーの消火というのがあったんですが、町内と、あとは近隣の各市の町内を巡回を、私、してきました。防火水槽があるところを見たことがなかったんです。ありませんでした。

ある市の消防に確認させてもらったら、防火水槽と三角バケツは備えているところはありますよ。これは一つの市だけだったんですが、避難所となる学校の地下の貯蔵タンクの中に水をためていますということでした。そこに三角バケツを置いてあります。だから、避難所となるところのバケツリレーの訓練はそこでできるけれども、ほかの町内ではやっているところはありませぬということだったので、確かにこの町の基本計画の中には、「初期消火活動ができるように、地域の実情に応じて消火用機材の配置に努める」とあります。これは、町の中の防災計画の中にあるんです。だから、今回、このようなリレーがあったんじゃないかと思うんですが、時代ごとというか、戦時中の焼夷弾が落ちて火を消すとい

うような感じの防火なんですね。

近くの人、皆、聞くと、家からのホースでまいたほうが早く消える。バケツなんかどこにあるんだと言うてましたけども、意識づけするには、確かに地域住民まじってのリレーバケツ消火もあるんでしょうけども、時代に合ったような訓練もしていかないかんのじゃないかと思うんですが、このリレーの消火について、どういう考えでこのような訓練を計画したのか、その点、1点お伺いしたいと思います。

○議長（福岡邦彬君）

答弁を求めます。

乾総務部長。

○総務部長（乾 晃夫君）

初期消火のバケツリレーでの消火につきましては、一定、もし災害があつて、消防自動車等が行くまでに地域住民の方々にそういうバケツリレーで消火を早くして消していただきたいというねらいからやったわけでございますけれども、議員のおっしゃるとおり、各丁目ごとにバケツを積んで置いているとか、そういうようなことがないということでございます。

防災計画は、一応、そういう設備をやるというふうには書いてございますけれども、それが追いついておらないというような現状でございます。

これについては、地域の防災の方々と十分今後とも協議をさせていただいて、一定、こういうところに置いてほしいということであれば、そういうことについては、今後、対応をしてまいりたいというふうに考えておりますので、よろしくお願ひいたします。

○議長（福岡邦彬君）

高橋充徳議員。

○3番（高橋充徳君）

地域の方としっかりと各自治体等との協働での訓練、そういうふうな設備なんかも

進めていっていただきたいと思っておりますので、どうか実情に合った物の装備というのを考えていっていただきたいと思っておりますので、この点、よろしく配慮をお願いいたします。

規則等も、見直しはしっかりしていかないかんと思つていますが、また後で述べさせていただきます。

先ほど、総務部長のほうからPRという話がありました。今回の訓練には、関係諸団体約900名がこの訓練に参加をしておりますということの報告が載つておりましたけれども、先ほどやっぱり総務部長がおっしゃいましたことですけれども、ある自治会長からは、今回の訓練をぜひとも多くの方に見てほしかつたなという、そういうような御意見が結構あちらこちらで見受けられたんですが、開催しますよという広報紙への掲載やホームページに掲載するだけでなく、他の手段を利用しての見に来てくださいという方法があつてもよかつたんじゃないかなというふうに思つていたんですね。

私、以前から、何かあるときには、町には広報車、要するにスピーカーのある車が何台かあるんですね。これを利用して、何かあるたびに町内を走つたらどうだということをやつとるんです。でも、なかなかその点は聞き入れていなくて、走ることがない、広報することがない。ただ、ホームページに載っています、広報紙に載せていますと言うだけで、もうそれで広報して終わったと思つていらつしゃる。実際は、町民の方は全然見てなかつたり見逃したりしているわけなんですね。ですから、こういったことも、これからはぜひとも何かあるたびに取り入れていっていただきたいというふうに思つてます。

数年前の、これは一つの例ですが、新光

風台の投票場所が自治会からシートスに変わったというようなことも、ただ通知だけで終わったんですね。このときも、私、スピーカーで変わりましたよ、場所が変わったんですよということを通知しなさいと言ったんだけど、なかなかやっていなかった。

そういうこともありますので、以後、何か町内で変わったことがあるのであれば、広報紙だけでなく、そういった広報手段もあるわけですから、ぜひともひとつ検討の一つに加えていただきたいと思います。この点、検討していただけるかどうか、御回答願います。

○議長（福岡邦彬君）

答弁を求めます。

乾総務部長。

○総務部長（乾 晃夫君）

今回の防災訓練につきましては、広報車等で回るということはなかったということでございます。

私のところの部だけじゃなくて、ほかのところもPRに努める、あるいは急にそういうことをPRしなければならないというようなことになったときには、どういうふうにPRをいかに有効にできるかということについては、今後、全部で話し合いたいというふうに思っておりますので、よろしくお願いたします。

○議長（福岡邦彬君）

高橋充徳議員。

○3番（高橋充徳君）

検討をよろしくお願をしたいと思います。

次に、全国各地で計画されているとは思っておるんですけども、広域の避難所となる、これは各学校の施設を利用しての避難所となるわけですけども、この学校というのは、本来、教育という任務を持った学

校であるわけで、そこに勤務する先生方に、避難所の運営とかというのは負担がかかってくるんじゃないかと思われるんですね。

昨年、私、各学校長に直接面接をいたしまして、避難所マニュアルなんかはつくっていますかというふうに確認をさせていただきました。

学校独自としては、小学校1校のみ、私、独自でつくっていますと。これは、先進的な小学校の校長でありましたので、みんなを集めて検討してつくりましたというのを見せてもらいました。

ほかの学校は、なぜつからないんですかというふうに聞いたら、上からの指示待ちですというのがほとんどの答えでありました。避難所となる学校だから、教育委員会、または教育長指示によるものと判断をされてつくっているんだろうと思うんですけども、それとも防災の担当者がその指示をしてつくってくれるのか、それとも各学校の避難所については、教育委員会がつくるのか、教育委員会が指示をするのか、どちらが指示をして各学校の避難のマニュアルとか運営のマニュアルなんかをつくらすのか、この点、ちょっとわかればお聞かせ願いたいと思うんですが。

○議長（福岡邦彬君）

答弁を求めます。

小川教育長。

○教育長（小川照夫君）

お答えいたします。

学校につきましては、校長会等で、私のほうから既に指示をしております、今年度実施しました教育委員会による学校訪問の際に、ことしのテーマは防災教育に対する学校の考え方ということで、全ての校長から聞き取りをいたしました。

その中で、各学校が地域の近隣の住民さんもいろいろ御協力を得ながらつくってほ



しいという指示を出しておまして、今年度中には、全ての学校においてそれができ上がるというふうに思っております。

○議長（福岡邦彬君）

高橋充徳議員。

○3番（高橋充徳君）

これは、私、去年のことですから、進歩しているということですね。安心というか、一安心というか、ちょっとした安心は持てるわけですが、やはり学校は各地域の自治会とかと協働してつくっていかなきゃいかんということですが、防災担当として、学校との連携というのは万全にとられているかどうかというのも、これも一つ確認しておきたいんですが、いかがでございましょうか。

○議長（福岡邦彬君）

答弁を求めます。

乾総務部長。

○総務部長（乾 晃夫君）

防災担当として、学校と直接そういう連携をとっているかということでございますけれども、それぞれのところで今のところはやっております、この間、880万人の大阪府全部の避難訓練ということで、各公共施設については、その時間、10時でしたか、ちょっと時間は忘れましたが、それに合わせて訓練をやり、各小中学校、幼稚園、保育所等についても、その時間に全て訓練をやっていただいたというふうに聞いておるところでございます。

これについては、一つの契機づけになったというふうに聞いておりますけれども、学校と防災担当の、もしも災害が起きたとき、今、学校での避難所としてのマニュアル等について作成をしていただいているというふうに思っておりますけれども、そのほかにも、いろんな防災について各学校にお世話にならないかんというようなことも

ございますので、これからについては、次の防災計画の作成に当たっては、そういったようなことも考慮に入れながら学校との協力をしてまいりたいというふうに思っておりますので、よろしくお願いいたします。

○議長（福岡邦彬君）

高橋充徳議員。

○3番（高橋充徳君）

余り聞くと時間がなくなっちゃうんで、次に町の防災計画についてであります、防災計画の被害想定の中の項目の中に、これは前提ですよ、南海トラフによる地震では、本町にはほとんど被害がないと想定されると、こういうふうに入っているんですね。それに沿ってつくられたのが、今の町の地域防災計画なんですよ。ないものと想定してつくっているんです。これじゃあ、何のためにつくっとるんだという、私、本当に危惧しとるんですが、これはやっぱり考えてもらわないかんと思うんですね。

これからは、東海・東南海・南海地震の連動があった場合、どうなるか。これを最悪の状態、条件としてつくっていかないかんと思うんですね。だから、こういう見直しを、この基本計画の見直しというのをしっかりとやっていかないかんじゃないかと思うんですね。

こういったことも踏まえて、この見直し防災計画を根底から作り直すというのをやる覚悟があるかどうか、ちょっと考えをお聞かせ願いたいと思います。

○議長（福岡邦彬君）

答弁を求めます。

乾総務部長。

○総務部長（乾 晃夫君）

本町の防災計画につきましては、東南海での被害よりも、高槻有馬断層の被害のほうが地震では大きいというふうに府のほうから被害想定が出ておまして、一定、そ

れに合わせて今現在はやっておるところで  
ございます。

有馬高槻断層のほう地震の強さが強い  
という形になっておりますけれども、今、  
議員御指摘のとおり、三つの地震が同時に  
起こったときにどうなるかというやつにつ  
いては、津波の心配はございませんけれど  
も、今現在、震度等の調査、あるいは被害  
想定、国において今年度末に各地域の被害  
想定を出すというふうに言われております。

それを受けまして、大阪府のほうから、  
例えば豊能町については、例えば全壊の家  
が何カ所出るとか、半壊が出る、死亡者数  
が約これだけ見込まれるという想定が大阪  
府のほうから示されるというふうに思っ  
ております。それは、地層とか、そういった  
ようなところから分析がされてくるんでは  
ないかというふうに思っております。

それが示されましたら、例えば非常食は  
何人分用意せなあかん、水がどれだけ要  
るとか、そういったようなことをもとにし  
まして防災計画をつくり、備蓄計画をつ  
くっていくというふうな形になってくる  
と思っておりますので、基本的には、その  
被害想定を受けまして、来年度に防災計  
画の策定については取りかかっているか  
ないかというふうに思っているところで  
ございます。

以上です。

○議長（福岡邦彬君）

高橋充徳議員。

○3番（高橋充徳君）

確かに、モノレールの少路駅、この近  
辺、高槻断層が来ているんです。すごい  
断層が、段差があるんですね。航空写真  
見たらわかるとおり、すごいあそこま  
で来ている。それが起これば、我がま  
ちにも若干影響があるんじゃないかな  
という事は危惧しております。総務部  
長がおっしゃるとおり、高槻有馬断層、  
これはやはり町としては見て

いかないといけない大きな断層帯であ  
りますので、この点もしっかりと見て計  
画をつくっていただきたいと思いま  
す。

これについては終わりますが、この本  
会議のときに、災害対策基本法の一部が  
改正されたことによって、豊能町におい  
ても防災会議条例と災害対策本部条例の  
一部が改正するという案を可決されまし  
たけれども、この件に関しましては、新  
たに議案として出てきたものですから、  
町長に答えてもらいたいと思いま  
すので、よろしくお願いま  
す。

内容的には、防災会議の委員の定数が  
27人となっています。「自主防災組  
織を構成する者又は学識経験のある者  
のうちから町長が任命する者」とあり  
ます。

阪神・淡路大震災、今回の東日本大  
震災でも問題となったのが、避難所の  
運営や救助支援物品等に女性の視点か  
ら見た必要なものが整備されていな  
いということが各地で見られてお  
ります。

今回、この条例が改正されたことから、  
町長が任命するものの中には、ぜひと  
も女性を入れてもらって、男性では判  
断が難しい問題を解決するという趣旨  
のもとで、この町長が任命するもの  
の27人の中に女性も極力入れてい  
ただいて女性の意見を聞くというよう  
なことを要望しておきたいと思  
うんですが、町長、お考えはかがで  
ございましょうか。

○議長（福岡邦彬君）

答弁を求めます。

田中町長。

○町長（田中龍一君）

お答えいたします。

現在、22名ということで、池田市  
医師会の理事の方が女性ということで、  
今現在、入っているところでございま  
す。

次に、今、町長が委嘱できるという話

んですけども、今現在、学識経験者の方に入っていただくということを検討しております。

ただ、委員の選出に当たっては、委員にふさわしい女性の方があれば、委員として委嘱していきたいと思っております。

以上でございます。

○議長（福岡邦彬君）

高橋充徳議員。

○3番（高橋充徳君）

町長の任命権限ですから、しっかりと女性の視点を入れて、1名医師会の方がおられるということも聞いていますけれども、1名よりも2名と、2名より3名という、やはりこれからは女性の時代となりますし、しっかりとこの観点もよろしく願いをいたします。

次、町の防災計画の中に自主防災組織の育成というのがあるんですが、もちろん防災に関しては、比率的には自助が7、共助2、公助が1という割合なんですね。きょうの新聞にもそういうことが載っていましたがけれども、災害に強いまちづくりを目指していると言うのであれば、もちろん地域の防災力の向上に町としても力を尽くしているとは思いますが、各地の自治会単位の防災組織というのは、防災組織に対してしっかりとした助言や指導や相談等の連携はとらなければいけないというふうに思うんですが、今現在、そういった各地域の自治会単位でつくっている自主防災組織に対して、町としてはどのような育成をしているか、要は世話をしているかというのがあれば、お答えを願いたいと思います。

○議長（福岡邦彬君）

答弁を求めます。

乾総務部長。

○総務部長（乾 晃夫君）

現在、町内には五つの自主防災組織がご

ざいまして、それぞれ自主的に活動をしていただいております、町としましても、必要に応じたそういう活動の支援をさせていただいているというところでございます。

町としましては、毎年、自主防災組織の方々を対象にいたしまして、初期消火訓練、あるいは普通の救命講習、あるいは防災センターの視察研修などをやっていただいております。ことしにつきましては、地域防災のあり方ということで、講演会等を開催させていただきたいというふうに思っております。

ただ、現実を申しますと、自主防災組織の皆さん方が毎年代わられるということで、反面、いろんな方にそういう防災を考えていただく機会になってよいとは思いますが、それぞれの自主防災の組織が育つという意味では、毎年代わられるということになると、なかなか定着しないということもございまして、来年つくります防災計画を策定する上においても、自主防災組織というのは大きな役割を担っていただかなければならないということもございまして、防災計画の中での自主防災組織のあり方、また来年度以降につきましては、町としては、自主防災組織を育てていくという観点から、そういう予算等についても計上を考えてまいりたいというふうに思っております。

以上です。

○議長（福岡邦彬君）

高橋充徳議員。

○3番（高橋充徳君）

確かに、自治会は1年交代ですところがほとんどなんですね。あるところでは、2年、3年、継続してやっているところもありますけれども、1年交代というのがほとんどで、次に申し送れていないというのが現状なんです、それで一つの対策としては、

何か災害が起こった場合に、指導や助言ができる人員を組織するというので、これは人員というのは、行政が二、三人つくるんです。そして、五つの地域に何かあったときに派遣をする。会議をやるときには、専門的知識を持って、その中に入って、その方も一緒に、二、三人の方が中に入って協議をし、防災会議を進めていくというような組織を、もし可能であれば、町の任期としては、3年から4年という単位でつくっていただきたい。

そうすると、何か事があったときには、その自分が担当している地域の防災訓練に参加し、避難訓練のときも参加をし、事があったときには、避難所の中にも、二、三、その避難所が自立で立ち上がるまで面倒見てあげるといような組織をぜひともつくっていただくようなことをお願いしたいと思うんですが、これはまたるこれから先のことになると思いますけれども、こういうお考えも、今の自治会の1年単位の問題を解消するには、それがやっぱりベターじゃないかというふうに思うんですが、提案なんです、一つの案としてこれは考える余地があるかないか、ここだけちょっと回答願いたいと思うんですが、いかがでしょうか。

○議長（福岡邦彬君）

答弁を求めます。

乾総務部長。

○総務部長（乾 晃夫君）

町の基本的な考えとしましては、自主防災組織をそれぞれの自主防災組織の方が、例えば3年、4年とか続けていただける、消防団ではないですけれども、そういったような形で育成を、例えば3年いていただくとか、そういうような形で育成を町としてはやっていきたいというふうに基本的には思っているところでございます。

ただ、防災計画を策定するに当たりまして、いろんな地域の意見等も聞いてまいりますので、それらの意見を尊重して防災計画、あるいは自主防災組織の育成というのには進んでまいりたいというふうに思っておりますので、よろしく申し上げます。

○議長（福岡邦彬君）

高橋充徳議員。

○3番（高橋充徳君）

あともう一つ、町には役場としての拠点が二つ、西と東にあるわけですが、この町としての機能を失った場合、両方とも失った場合には、町としてはどのような計画を持っておられるのか、この点、お伺いしたいと思います。

○議長（福岡邦彬君）

答弁を求めます。

乾総務部長。

○総務部長（乾 晃夫君）

きのうも平井議員のほうから質問があって、支所、あるいは役場が潰れるということもあるやないかという話がありました。

それについては、今、防災計画では、全職員が役場に集まれる、あるいは支所に集まれるというのを大前提として防災計画自体はつくられておりますけれども、今言われたように、緊急の場合、例えば支所が潰れた場合には、今、新しく建てている消防のところを西地区の本部にする、あるいは役場がもしも潰れてしまったときには、消防の東出張所等に本部を置くとか、そういったようなことを一定あらかじめ定めておかなければならないというふうに思っております。

これにつきましては、きのうもちょっとありましたけれども、職員の提案制度の中から、ことし業務継続計画ということで、国のほうも各市町村の防災計画とは別に、そういう業務継続計画、例えば地震が起き

て1時間後に職員が何人来たときには、どういう業務からまず始めるのか、あるいは半日したときには、どういう業務に広げていくのか、あるいは24時間後、3日後、1週間後というふうに、現在、実際の職員が集まってきたときに、何をまず業務としてやっていくのかというようなマニュアルづくりをやりなさいというふうに言われておきまして、大阪府下の市町村も徐々に取り組んできているというような状況でございまして、町におきましても、この11月の末に第1回の委員会を立ち上げまして、来年度に向けてそういうマニュアルづくりをつくってまいりたいというふうに思っております。

これには、現在、香川大学の危機管理センターの先生も入っていただいて、マニュアルづくりに努めていきたいというふうに考えているところでございますので、よろしく願いをいたします。

○議長（福岡邦彬君）

高橋充徳議員。

○3番（高橋充徳君）

一応、構想的には聞いたんですけれども、私をもっと聞きたかったのは、町に持っている住民の皆さんの基本のデータベースと、あと町が何かあった場合にやらなければいけない資料がいっぱいあると思うんですね。例えば、水道管がどこに通って、どういうところに図面があって、図面がなくなったら、多分終わりだと思うんですね。

こういうふうな基本のデータベース、図面のデータベース、これを町の中の1カ所にやったら、全部潰れてなくなってしまうんですね。

そうなった場合に、タイアップして、府にデータベースを送っているというのもあるでしょうけれども、どこか協力できる市町村を一つつくっていただいて、町のデー

タベースは、もし何かの場合、町が全部なくなった場合にも、基本的なものはあそこの町に行ったらうちのものはあるというような組織づくりをしていていただきたいなというように思うんですね。こういった考えがあるかないか、これから本当に大変な作業だと思うんですが、ひとつ進めてもらいたいと思うんですが、その点の考えはいかがでございましょうか。

○議長（福岡邦彬君）

答弁を求めます。

乾総務部長。

○総務部長（乾 晃夫君）

地震が起こったときに、そういうデータベースをどうするかということでございます。

住民基本台帳とか、そういったようなやつについては、町と、それから大阪市内にあります業者との間で、そういうデータベースは確保はできているというふうに思っております。そこも潰れたらどうするねんというようなこともございますけれども、あるところでは、例えば大阪と長野県とか、そういったような姉妹都市を結んでいるところにそういうデータを預ける、お互いが預かるかとかというような形をとられているというようなところもあるというふうに聞いております。

そういったような点、あるいは今、水道の例がございましたけれども、どこにどのように敷設されているかということについては、データベースとしては多分ないというふうに、図面でしかないというふうに思っておりますけれども、そういったようなやつも、順次、そういうすぐに持って出られるとか、そういう確保ができるというようなことについても、業務継続計画等の中で今後検討してまいりたいというふうに思っておりますので、よろしく願いし

ます。

○議長（福岡邦彬君）

高橋充徳議員。

○3番（高橋充徳君）

いっぱい時間が過ぎてしましまして、本当にたくさん答えていただいて、この件については、神戸が潰れたとき、市役所が全部、7階が潰れたんです。7階には水道局が入っていたんです。全部潰れてライフラインがおくれたのは、そこが原因なんです。地図が出てこなかったというのね。その点があるんで、注意していただきたいと思うんですが、戦後最大の被害をもたらした、この阪神・淡路大震災の経験から、全国の自主防災組織の組織率というのが、平成18年で66.9%ですから、かなりの自主防災組織が組織されておるんですが、日本列島の面積というのは、世界でたった0.3%しかないんです、日本の面積ね。

世界で発生するマグニチュード6以上の地震というのは、10.9%が日本で起きているんです。地震の空白域というのが一番怖いことなんです、先般に起きました平成7年の阪神・淡路が空白域だったんです。揺れなかったんです、ずっと。ですから、余り震災に対しての危機感を持っていなかった。

だから、あんなに大きな民家が潰れる、火事が起きる、大災害を起こしてしまったんですが、私、この阪神・淡路大震災の経験をした私から見ますと、地震に対する危機意識というのが、町全体がちょっと薄いなど感じております。

自主防災組織においては、災害されたところで、人命救助が一番大事なんですね。各自治体がつくるときには、各自主防災をつくるときにはぜひとも言ってほしいのは、命を救うことが一番大事なんです。

そうすると、この家には、もう私の家に

は、救助する必要はありませんよというように印が町内にあれば一番いいんです。

ですから、そういうのは各自治体でばらでつくるよりも、行政が指示をして、こういうものを自主防災組織の中につくるときには入れてくださいよというような提案をしたいと思うんです。

例えば、黄色いハンカチ、家の前に何かをつけるというような形、これはある市で取り組んでいる白なんです、うちは大丈夫という目印をつける、これは非常に命を助けます。消防が来る、自分たちが助ける、自衛隊員が助けに来る、そのときには、その目印を見て、ここはもうやらなくていい、じゃあ次回ろうと。次には、誰かが埋もれているかもしれないというような判断状況になるんで、ぜひともこういったことを入れられるような今度の防災の基本マニュアルをつくっていただきたいと思います。

返答は、時間がありませんので、よろしくをお願いをしたいと思います。

あと2点、教育委員会と福祉関係、生活福祉部長にぜひとも聞きたかった事項でありましたけれども、時間が迫ってまいりました。次回聞きますので、しっかりと用意をしておいていただきたいと思いますので、よろしくをお願いをいたします。大事なことなんです。命を守ることでありますので、よろしくをお願いをいたします。

以上、高橋の質問を終わります。

○議長（福岡邦彬君）

以上で、公明党の一般質問を終わります。この際、暫時休憩いたします。

再開は11時といたします。

（午前10時40分 休憩）

（午前11時00分 再開）

○副議長（小寺正人君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

次に、無所属の会の一般質問を行います。  
持ち時間は、質問及び答弁を合わせて8  
0分とします。

秋元美智子議員を指名いたします。

秋元美智子議員。

○10番（秋元美智子君）

無所属の会の秋元美智子です。町長にお  
かれましては、昨日に続いての一般質問と  
なりますけれども、よろしくお願ひいたし  
ます。

私のほうからは、町長の選挙公約と所信  
表明を中心に質問させていただきたいと思  
いますが、既に他の議員から質問もあつた  
ところがございますので、できる限り省か  
せて進めていきたいと思ひますので、よろ  
しくお願ひいたします。

では、通告に従ひまして順次質問させて  
いただきますけれども、保育時間の延長、  
戸知山については、一番最後のほうで出し  
ておりますけど、途中で触れさせていただ  
くことになりまふことを前もつてちょっと  
お伝え申し上げ、お許しくださいませ。

まず最初に、選挙の公約と所信表明とい  
うことで上げさせていただひています。

町長に立候補されるに当たりまして公約  
されましたことは、今、ざつと読み上げさ  
せていただきますけど、町の将来を見据え  
た地域公共交通ビジョンの策定ですとか、  
ときわ台駅のバリアフリー化、保育時間の  
延長と日曜日・祝日保育を実施する。光風  
台前エスカレーターを更新する。それから、  
まちづくり課を新設して、移住・住みかえ  
支援機構を活用した空き家対策、それから  
住民とNPO等の協働によるまちおこし、  
それからユーベルホールを文化発信の拠点  
として活用する。地産地消のシステムを構  
築する。また、町長報酬20%カットする。  
総人件費を圧縮する。それと、住民と行政  
の双方のコミュニケーションを促進する。

この12点ですが、私はこの公約に当たり  
まして所信表明を読ませていただきまして、  
きのうも同じ質問があつたんですけども、  
町長、所信表明の中で、「住民目線さま  
ざまな提案を豊能町にしてまいりました。  
しかし、一住民、一まちづくりの団体では、  
豊能町政に対する影響力はほとんどありま  
せんでした」と書かれていましたね。

具体的にどのようなことを提案されてき  
たのかお尋ねしたいと思ひていましたとこ  
ろ、先ほど同じ質問がございました。

町長のほうからは、農産物直売所を西地  
区に常設することを提案したと、このこと  
だけが答弁であつたんですけども、これだ  
けですか。ちょっと大変失礼ですけども、  
ちょっと意外だったものでして、まだほか  
にあるのではないかなと思ひて、質問させ  
ていただきます。

○副議長（小寺正人君）

答弁を求めます。

田中町長。

○町長（田中龍一君）

秋元議員の質問に対してお答えいたしま  
す。

私、この前、小寺議員のときにも説明い  
たしましたけれども、まちづくり団体から  
もう既に脱退しておりまして、まちづくり  
団体が町へ提案した内容については、この  
場で答えることはふさわしくないというこ  
とで、回答を差し控えさせていただひます  
ということを申しました。

それと、個人的に提案したものは、西地  
区における農業直販所の設置ということ  
で、前回、回答させていただひましたとお  
りでございます。

以上でございます。

○副議長（小寺正人君）

秋元美智子議員。

○10番（秋元美智子君）

まちづくり団体、名称は具体的にどうこう聞いているわけでもないですし、町長が町長となる前にどのようなことをこの豊能町の中で提案し、訴えてきたのか、やはりそれは私たち議員も知り得たいところですので、よろしく願いいたします。

○副議長（小寺正人君）

答弁を求めます。

田中町長。

○町長（田中龍一君）

お答えいたします。

それにつきましては、先ほど申し述べたとおりで、私個人で申し込んだものは、これでございます。

あとは、団体とも協議しながら進めさせていただいたものですから、この場ではお答えは控えさせていただきます。

以上でございます。

○副議長（小寺正人君）

秋元美智子議員。

○10番（秋元美智子君）

町長がそういう姿勢でしたら、別に構いませんけれども、ただ町長御自身は「住民目線でさまざまな提案を豊能町にしてきました」と、自分の立場を、「さまざまな提案を豊能町にしていりました」と、ここに書かれておりますので、たった一つがさまざまという表現にはならないと思うんです。違いますか。

私のほうは、なぜこの質問をしますかと言うと、さまざまな提案をしてきて、それらはやはりなかなか町政に届かなかつたと。その思いがこの公約に上がっているんじゃないかなというふうに受け取ってありました。そういう意味で、どのような提案を町長の中でこれまでされてきましたかとお尋ねしているんですけども、そういう趣旨を酌んでお答え願えませんでしょうか。

○副議長（小寺正人君）

答弁を求めます。

田中町長。

○町長（田中龍一君）

お答えいたします。

やはり、同じ回答をさせていただきますけれども、私個人では、農産物の直販所ということは提案はさせていただいております。

そのほかにつきましては、その団体の中から話をしておりますので、それについてはお答えは差し控えさせていただきます。

以上でございます。

○副議長（小寺正人君）

秋元美智子議員。

○10番（秋元美智子君）

では、町長、一つは一つでもいいんですけど、「さまざまな提案をしてきたけれども、一住民、一まちづくり団体では、豊能町政に対する影響力はほとんどなかった」と、こう書かれてしまったら、私、前町長の町政、職員を実に軽んじた言葉じゃないかなと。何かしらのやっぱり提案を申し入れてきた、それなりのアクションはあったはずですよ。違いますか。

この意味合いというのは、私は非常に問題があるなど。今、町長は、あくまでも御自分お一人だとおっしゃって、一つしかなかったということをおっしゃるならば、「さまざまな提案をしてきた」なんていうことはやっぱり書くべきではないと思いますし、一団体の力では、一個人の力ではと、ましてここに一団体のお考えを書かれているんですよ。これはよろしいんですけどもね。

（発言する者あり）

○10番（秋元美智子君）

傍聴からもそういう御意見があります。いろんな意味の声もありますんで、そういうことも含めまして、私、町長がお答えい



ただけるものと思っていましたので、再度、お願いいたします。なければ、またもっと違った形だと思いますので。

○副議長（小寺正人君）

答弁を求めます。

田中町長。

○町長（田中龍一君）

お答えします。

同じ回答とさせていただきます。一住民としてと一団体としてということで、一住民としてのことについて申し述べたことをごさいます。

以上でございます。

○副議長（小寺正人君）

秋元美智子議員。

○10番（秋元美智子君）

きのうも漢字やら言葉やらの表現のことがちょっと議員のほうから出ましたね。一つのことを「さまざま」とは使いません。このさまざまを使って提案してきても、それでもやはり受け入れなかったと書けば、やはり職員ですとか、そういういった人たちの立場を考えてください。違いますか。これから豊能町の町長としてトップに立っていく立場です。やはりそのあたりは、きちっと御自分の中でも認識していただきたい。

それと、もう一つ、さまざまを一つだという表現の中で言った場合、今後、町長の言葉の中で、その言葉が事実かどうか、やはりその信頼関係も生まれてくるんです。そのことも肝に銘じていただきたいと思います。

では、その一つのこと、直売所のことについて述べさせていただきますけれども、これ、いつどのような方法で何回にわたって豊能町のほうに申し入れされてきたんでしょうか。

○副議長（小寺正人君）

答弁を求めます。

田中町長。

○町長（田中龍一君）

お答えいたします。

お答えはしますけれども、ただ今回、この質問というのがふさわしいかどうかというのについては、ちょっとこの場で聞くことについてはいかがかと思えますけれども、一旦、お答えいたします。

これにつきましては、ある町会議員の方を通して町のほうに何度かお願いをさせていただいたというところがございます。

以上でございます。

○副議長（小寺正人君）

秋元美智子議員。

○10番（秋元美智子君）

それは、通告にない質問をしているということですか。私、通告を出しておりますので、どのようなことを提案されてきましたかと。これに合わせて質問していくというのは、これまでの議会のおりなんですけれども。もし、町長がおっしゃっていることが違った意味だったら、また私のほうに御指摘くだされば、お答えいたします。

議員を通して言ったということですけども、それで実現できなかったということですけども、そのときに、どうして実現されないかは、やっぱり町長御自身も御確認されたと思うんですよ、何で実現できないのか。

やはり、それなりの思いがあって、自分だったら実現できるのになとか、こうすればできるのになという思いがあっての今回の私は立候補だと思うんですけども、当然。そうすると、窓口が間違っていたのか、お金がなかったのか、どのような行為の中でこれが実現できなかったんだと、町長御自身、どのように御判断されましたか。

○副議長（小寺正人君）

答弁を求めます。

田中町長。

○町長（田中龍一君）

お答えいたします。

その件につきましては、部署については、町会議員の方から適切な部署を言っていたかと思えます。

どうして実現できなかったかにつきましては、そのあたりにつきましては、昨年度に同様の補助金、これは私が提案したものににつきましては、補助金を活用して農産物の直販所を設けたらどうかという話を言ったのでございますけれども、前年度に同様の補助金を出したけれども、それについては使うことができなかつたと。今回、新たなこの補助金について適用するというところは困難であるというような回答をいただいております。

以上でございます。

○副議長（小寺正人君）

秋元美智子議員。

○10番（秋元美智子君）

ということは、町長が御提案された農産物の直売所というのは、行政も行政なりに取り組んでいたんだなということは御認識いただき、なおかつ田中町長としては、もし自分だったらこういうふうにできるんだろうなということが、今回の立候補の大きなきっかけの一つだなと私のほうは認識させていただきます。

それで、私、先ほどなぜ町長のほうが書かれたことで、一つのことをさまざまなこと、この文章にこだわるかと言いますと、読んでいただいていますと、まちづくり団体、いろんな団体もありますでしょう、各種団体もあります、いろんなボランティア団体もあります。それから、個人、議員も含めて、提案をすれば、それが実現されるのが行政だと誤解されないかなと、また町

長御自身、誤解されていたんじゃないかなというふうにも読めたんですね。これはいかがですか。

○副議長（小寺正人君）

答弁を求めます。

田中町長。

○町長（田中龍一君）

お答えいたします。

この提案につきましては、補助金が100%、当時、つくというものでございましたので、それとこういったアイデアということで、お金の面、両方の面で根拠はあったということで、それについて採用していただけるものではないかと考えておりました。

以上でございます。

○副議長（小寺正人君）

秋元美智子議員。

○10番（秋元美智子君）

私の質問の趣旨は、所信表明のほうにこのような表現を、繰り返すつもりはないですけれども、書かれたら、いろんな団体、住民、そういう方たちが、行政というのは何か要望したり、あるいは提案をしたりすると、それが実現できて当たり前だと受け取られますよと、そう思いませんかという質問だったんです。

町長がそうじゃないとおっしゃれば、それまでで、私の文章の読み方の違いですけれども、そういうふうな危険性のある、この出だしの一文ですので、質問させていただきました。

○副議長（小寺正人君）

どういう質問の内容。

○10番（秋元美智子君）

町長が所信表明に書かれました、一団体としていろんなことを提案してきた、個人として提案してきた。だけれども、それが影響力がなかったということを書かれてお

りますので、これはこれで、どんなさまざま提案のことについても触れてくれませんでしたけれども、であるならば、このことをこのままにしておきますと、一個人なり一団体なり、議員にしても、いろいろ住民を含めて、何かを要望し提案したら、行政はそれを実現して当たり前だと受け取られかねませんよと、そう思いませんかという質問なんです。

○副議長（小寺正人君）

答弁を求めます。

田中町長。

○町長（田中龍一君）

お答えします。

私はそういうふうにとられるとは思っておりません。私は、あくまでも、今、こういった思いがあったので、私の思いを実現したいということで、こういった表現をさせていただいていただけてございます。

以上でございます。

○副議長（小寺正人君）

秋元美智子議員。

○10番（秋元美智子君）

では、このことはこれで終わりにいたします。文章はいろんな形で読まれますので、ぜひ一つのことでも、さまざまという表現とか、いろいろ言葉遣いによりましては、期待もし、誤解もされますので、よろしく願いいたします。

では、実際の公約についてなんですけれども、ここにいろいろ町長が挙げられておりますけれども、私、この公約、いろいろ所信表明のほうと照らし合わせていただきながら、多くのことは行政の継続という、これまでの部分もありますので、これまでの過去歴代のいろんな町長がされてきたこと、見直してきたこと、そういうことの拡充・充実かなという部分が約8、それがいい悪いじゃないんですよ、というふうに私

は受け取ったんですね。

では、町長としての新しい提案というのは、つまりまちづくり課を新設して、移住・住みかえ支援機構を活用した空き家対策ですとか、それから前回要望したけどだめだった、地産地消システムを構築する、それと人事評価制度の導入で職員の総力を結集する。私は、これが町長としての新しい施策かなと思って、ほかのことにしましては、これまでの継続、そのさらなる発展を目指しておられるんだなというふうには受け取ったんですね。これ、私の受け取り方が間違っているかどうか。いや、そうじゃないんだと、これは私独自のオリジナルなんだというものがありましたら、ちょっと申しわけないんですけども、御指摘いただけたらありがたいと思います。

○副議長（小寺正人君）

答弁を求めます。

田中町長。

○町長（田中龍一君）

お答えいたします。

オリジナルというか、ここに書いてあることは、私は必要だということで、提案させていただいたものでございまして、やはり町の自治体の活性化、要はまちづくりに当たりましては、やはり同様なことをやっていくべきだというふうな観点もありますから、おっしゃるように、ダブっているところがあっても、それは当然だと思っております。

以上でございます。

○副議長（小寺正人君）

秋元美智子議員。

○10番（秋元美智子君）

ダブっていて当然です、行政継続も大事ですから。

ですから、これまで発展に向けて、あるいは充実に向けていた上に、さらに町長と

して充実されようとされているのは、発展であって、3点については、これは私は町長のオリジナル。つまり、何を言いたいかというと、まちづくり課、移住・住みかえ支援機構はこれまで豊能町になかったものじゃなかったのかなど。あったんなら、不勉強で申しわけない。

地産地消システムの構築、町長がおっしゃるには、販売所を設立するとか、それから人事評価制度の導入で職員の総力を結集する、これは今までになかった町長のオリジナルかなというふうに認識させてもらったんです。

この認識がもし違っていたら、非常に失礼なものでして、ほかに、これは私独自の考えというか、豊能町に新しいものを導入するものなんですよとか、いや、このことは既にあるけど、さらに充実させるためにここに上げましたというふうな御指摘があったら承りたいなと思ったんですけども、じゃあ今の私のこの認識でよろしいでしょうか。

3点は、豊能町にこれから新しく導入されるもの、ほかの8点につきましては、さらなるこれまでの継続の上に向けた充実として受け取らせていただけてよろしいでしょうか。

○副議長（小寺正人君）

答弁を求めます。

田中町長。

○町長（田中龍一君）

お答えします。

私は、そういった形で、どういったものを継続とか、そういうことでこれをつくったということではございませんので、私がこのまちをこういうふうにしたいという思いでつくらせていただきました。ですので、今のお答えについては、そういうことは特に考えてつくったものではなくて、私は豊

能町はこうあるべきだと、こういうことがしたいという思いでつくらせていただいたものでございます。

以上でございます。

○副議長（小寺正人君）

秋元美智子議員。

○10番（秋元美智子君）

当然、思いは結構です。思いを書く前に調べていますよね、当然、豊能町がどんなところか。違いますかね。

例えば、土曜日、保育時間の延長と日曜日・祝日保育の実施をすると、これを見たとき、私は、当然のごとく、保育所、幼稚園の延長時間、あるいはそこでの祝日・日曜日の保育、そういうことを挙げられているのかなど、それを実現したいのかなど思っていたら、昨日の御答弁では、ファミリーサポート支援センターを活用してと。でも、現実、もうそこでは子どもさんを預けたい方、預かりたい方、家庭の中でされていますよね、双方の関係の中で。違いますか、これ。御答弁願います。

○副議長（小寺正人君）

答弁を求めます。

田中町長。

○町長（田中龍一君）

お答えします。

既にはされております。ただ、こういった既存の制度をよりPRして実施していくということがまずは大事かと思っております。

以上でございます。

○副議長（小寺正人君）

秋元美智子議員。

○10番（秋元美智子君）

公約ですよ。これ、保育時間の延長と日曜日・祝日保育の実施をしたら、この豊能町はしていないように思いますよ。確かに保育所・幼稚園はしていませんから

ね、7時以降の延長保育とか。これ、PRだったら、ちょっと違うんじゃないですか。公約ではないと思いますよ、町長。余りこういうことをながなが質問してもちょっと嫌なもんですから、やっぱり住民を惑わせてはいけないと思います。

この中で、やはりこれらがまだ実現できていないと思っている住民が大多数ですよ。そして、保育園の先生の中には、いや、こういうことになったらどうしようと、自分たち、日曜日・祝日も出てくるんだろうかと、夜7時以降も働くことになるんだろうかと、やっぱりそういうふうなことを惑わせてしまってはいけない。よく、そのことは肝に銘じてください。

それと、移住・住みかえ支援機構を活用した空き家対策でございますけれども、この移住・住みかえ支援機構と言いますのは、50歳以上の方で、家をずっと一つの法人に預けて、その法人が新しい若い世代でも何でも入る方を探してくださるというシステムだと思うんですけれども、この法人のシステムを活用した空き家対策というのは、どういうことでしょうか。

○副議長（小寺正人君）

答弁を求めます。

田中町長。

○町長（田中龍一君）

お答えします。

まず、そういった既存のシステムがございますので、そういったところとも連携しながら、まずは豊能町でどういうふうな形で導入・PRできるのかということを中心に調査をして、それからこの豊能町でもその制度が有効に活用できるようにしてまいりたいと思っております。

以上でございます。

○副議長（小寺正人君）

秋元美智子議員。

○10番（秋元美智子君）

これについては、全国の中では、市単位では9自治体、青森県は青森県が中心となりまして、弘前だとか、八戸ですとか、それから県単位でも、神戸ですとか、宝塚ですとか、それから東京都で2区、板橋区ですとか、品川区ですとかが自治体として取り組んでいます。

取り組み方と言いますのは、こういうふうな、要するに法人のこういう機構がありますよという紹介ですよ、窓口業務を受けているわけじゃないんですね。

ですから、広報の中で50歳以上で、やはりこの家を誰かに貸したいという方がいらしたら、こういったことを利用しませんかということで、他の自治体はそれでおさめていますし、むしろ町長、きのう御答弁がありましたように、今、各不動産屋のほうに行かれていますようだけれども、そういう不動産屋のほうで、そういう窓口業務などをさせていただくほうが私はより有効的だと思っています。

これは私の提案ですので、これだけに終わらせていただきますので、結構でございます。

では、2項目に入らせていただきます。

財政再建25項目について今後、どのように取り組まれますかというふうなことを通告させていただいています。

私はこれは、先ほどの質問の中で、公約そのものがもしかしたらもう取り組むという姿勢なのかなというふうに勝手に受け取ってましたので、質問を飛ばすつもりでございましたけれども、やはりちょっと私の思いと、勝手に想像していたのと違いましたので、改めて質問させていただきます。

○副議長（小寺正人君）

答弁を求めます。

田中町長。

○町長（田中龍一君）

お答えいたします。

こちらにつきましては、御存じのように、22年3月に策定した現在の財政再建計画が平成22年度から26年度までの5年間の期間として取り組んでおられることとございますけれども、こちらにつきましては、現在の25項目の中には、見直しを行いたい項目も含まれますので、若干の変更は行う予定ですが、平成26年度までは、基本的には現在の再建計画を進めてまいりたいと思っております。

以上でございます。

○副議長（小寺正人君）

秋元美智子議員。

○10番（秋元美智子君）

町長として見直したい項目と言いますと、具体的にどれとどれとどれなのか、教えてください。

○副議長（小寺正人君）

答弁を求めます。

田中町長。

○町長（田中龍一君）

今、まずは考えておりますのは、一つは、公約に上げましたエスカレーターのことを考えています。それと、ユーベルホールにつきましても考えております。

以上でございます。

○副議長（小寺正人君）

秋元美智子議員。

○10番（秋元美智子君）

エスカレーターは、これ、22から26年度までの計画ですよ、財政再建計画は、31年まで延びることと、一応、そうなっているので、26年度までそのまま置いておいたら、何も見直す必要ないんじゃないかなと、ちょっと疑問になりましたけど。私の頭が混乱してしまったので申しわけないんですけど、お願いします。

○副議長（小寺正人君）

答弁を求めます。

田中町長。

○町長（田中龍一君）

この25項目というのは、当初、ここで挙げられているのは、光風台エスカレーターについては、更新を見送り、毎年度、修繕費計上、26年度末までに廃止というふうなことが25項目の中には上がっておりますので、これについては見直すということでございます。

以上でございます。

○副議長（小寺正人君）

秋元美智子議員。

○10番（秋元美智子君）

町長、その資料、古いんじゃないでしょうかね。その後に見直しているんですよ。ユーベルホールも見直しているんですよ。舞台のことやら、いろいろ経費を削減した後、その後は、毎年、毎年、検討していくと、検証していくと、ユーベルの見直しがあるんですね。もちろん、エスカレーターもそうになっていますね、平成31年廃止と。この文書を読んで、平成31年廃止を読んで、町長はそうなんだと、きのう御答弁されていたんで、きのうの資料と、きょうの資料とちょっと違うんじゃないでしょうかね。

○副議長（小寺正人君）

答弁を求めます。

田中町長。

○町長（田中龍一君）

きのう申しておりました資料というのは、2012年4月「広報とよの」、そこに載っております資料をもとに説明しております。

そこには、部品の供給とフルメンテナンスが不可能となった場合には安全性が確保できないことから、平成31年の末までの

運転は不可能となりますので、その時点でエスカレーターは廃止することになりますというふうに書いておりました。

以上でございます。

○副議長（小寺正人君）

この際、暫時休憩いたします。

再開は、放送をもってお知らせいたします。

（午前 11 時 32 分 休憩）

（午後 1 時 00 分 再開）

○副議長（小寺正人君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

答弁を求めます。

田中町長。

○町長（田中龍一君）

お答えします。

先ほどの 25 項目の件でございますけれども、光風台駅前エスカレーターにつきましては、平成 24 年 4 月の公表によりますと、「更新を見送り」とありますので、そういった点では、私は更新を見送らないということで、ここについては「見直し」ということを考えております。

以上でございます。

○副議長（小寺正人君）

秋元美智子議員。

○10 番（秋元美智子君）

これはきのうからの答弁も含めてですけども、今の町長の御答弁によると、要するに、このところには「見送り」が書いてあると。ちょっと資料を確認したいんですが、それは平成 24 年 4 月号ですね、お持ちの資料は。その資料に基づいての御答弁ですね。

確かに、そこには設備の更新を見送り、必要の都度、修繕を行うと、部品の供給とフルメンテナンスが可能な限り運転を継続となっていますね。

これ、今、町長は、これは見送らないで、

これを更新するんだと、そういう点では、25 項目の財政再建計画の見直しがありませんとおっしゃいましたが、これは財政再建計画ですね。

要するに、これを見送ったままだったら、これだけの財政的な効果があるけれどもというふうな資料ですね。おわかりですね、それ。これを更新するとなったら、これに財政負担がかかるわけです。更新するとなったら、今の御答弁のように。そのことについてはどのようにお考えなんですか。

○副議長（小寺正人君）

答弁を求めます。

田中町長。

○町長（田中龍一君）

お答えいたします。

豊能町の財政は、多くは住民税によるものでございます。私の考えといたしましては、こういったまちの魅力を下げようなエスカレーターの更新をしないということについて、公表することによって、より住民税の下がる可能性があるということで理解しております。

以上でございます。

○副議長（小寺正人君）

秋元美智子議員。

○10 番（秋元美智子君）

物は考えようですね。使えるものをお金をかけて変えてしまう、そういうまちに魅力を感じますか。これ、財政再建計画ですよ。これをやらないと、将来、要するに町長ぐらいの御年齢の方が高齢化になったときに、そのところを見据えた財政再建計画ですよ。しかも、これを出された当時は、もうあとわずかか赤字再建団体になる可能性もあるという中での、思い切った、非常に行政としては厳しい辛い決断の上の財政再建計画です。その町政の財政状況を十分御承知の上での今の御答弁でしょうか。

○副議長（小寺正人君）

答弁を求めます。

田中町長。

○町長（田中龍一君）

答弁いたします。

先ほど来申しておりますように、豊能町での税収の多くは、住民税によるものでございます。そういったことから、住民の魅力を感じられないような再建というのは、私としては、財政再建という意味ではよくないと、要は、エスカレーターといった住民の基本的なものにつきましては、残すほうが財政的には有利であるというふうな判断をしております。

以上でございます。

○副議長（小寺正人君）

秋元美智子議員。

○10番（秋元美智子君）

町長、これ、26年廃止と言って、そういう状況だったら、まだ言わんとしていることは伝わってくるんですよ。けども、26年から、27、28、29、30、31年まで可能になっているんですよ、これ、稼働が。

そういう中で、今取りかえることが、住民税を払っている方、豊能町、2万2,000人全員払っているという状況はないですけども、使われていない方の立場はどうなるんですか、これ。もちろん、あそこは駅を利用されている方のためには必要なものです。しかし、それはまだこの先でいいんじゃないですか。

今、何もこれで使えるものを、ここ町長の任期の、この2年、3年のうちで変えてしまうという、そのことというのは、税金の無駄遣いとは言いませんけれども、これはやはり考えるべきじゃありませんか。

豊能町住民の、今、生きている私たちじゃないんですよ、10年、20年先まで係

ってくるんですよ、そういう姿勢というのが。そのための財政再建計画だったんですよ。そのために、多くの住民に協力していただいている。御存じですね、吉川公民館のように、あるいは婦人の家のように。そういった方々の立場も考えた上での御答弁をお願いいたします。

○副議長（小寺正人君）

答弁を求めます。

田中町長。

○町長（田中龍一君）

お答えいたします。

私は先日来から話をしておりますように、このエスカレーターにつきましては、補助金の手当があるうちに早々にやっていくべきだと思っておりますので、そういった意味では、早く補助金があるうちに着手するということは、本町にとっても財政的にも有効であると考えております。

以上でございます。

○副議長（小寺正人君）

秋元美智子議員。

○10番（秋元美智子君）

私、ここでエスカレーター問題がこういうふうな議論になると思っていなかったものでして、別途また項目を上げていますので、そのときに改めて触れさせていただきます。

それで、もう1個、見直しの中でユーベルというふうにもおっしゃいましたね。違いましたかね。このユーベルはどのように、なぜ見直しが必要なのかもお答え願えますでしょうか。

○副議長（小寺正人君）

答弁を求めます。

田中町長。

○町長（田中龍一君）

お答えいたします。

ユーベルにつきましては、今後、運営を



毎年継続していくということになっておりますけれども、それに当たりましては、当初計画の中で、舞台装置等の見送りとあるんですけれども、これは実施していくに当たりましては、非常に人命にもかかわるようなこともございますので、舞台装置というのは、早急に修繕をしていく必要があらうかということで、今回、考えております。

以上でございます。

○副議長（小寺正人君）

秋元美智子議員。

○10番（秋元美智子君）

これは、現場の方とか、そういう方たちの御意見をお伺いしての町長の御判断ですか、人命にかかわるから舞台装置を替えるとかというのは。それとも、町長の、この文面的な中での思いですか。どちらでしょう。

○副議長（小寺正人君）

答弁を求めます。

田中町長。

○町長（田中龍一君）

お答えします。

担当の者ともお話をして、今、大分摩耗してきているという話もございましたので、今回、来年度の予算で、今、検討しているところでございます。

以上でございます。

○副議長（小寺正人君）

秋元美智子議員。

○10番（秋元美智子君）

じゃあ、これに関しては、担当のほうから、やっぱりそうすべきだと、そういうふうな御提言なり方向性が出されて、既に、これは話を聞いたんじゃないかと、話し合った結果、見直すということで御理解させていただいてよろしいですか。

○副議長（小寺正人君）

答弁を求めます。

田中町長。

○町長（田中龍一君）

お答えいたします。

これにつきましては、必要ということで、今、検討しているところでございまして、細かいことについては、今後、また詰めていく予定でございます。

以上でございます。

○副議長（小寺正人君）

秋元美智子議員。

○10番（秋元美智子君）

細かいところはこれからもちろん詰めていくんでしょうけれども、命にかかわる問題だから取りかえるという方針は、もう町の中で、担当、そういう方たちとの決まったことですねということです。単にお話を聞いて、町長の判断ではなくて、もちろん担当のほうから、そうすべきだと言った上で、もう予算を出されるというふうに、つまり見直しというふうに受け取っているんですけども、よろしいですか。

○副議長（小寺正人君）

答弁を求めます。

田中町長。

○町長（田中龍一君）

お答えいたします。

次の予算に向けて、十分、今、協議しているところでございます。ですので、次の予算には替えていくべく、今、調整をしているところでございます。

○副議長（小寺正人君）

秋元美智子議員。

○10番（秋元美智子君）

これにつきましては、ユーベルに関しまして、どのように引き継いでいらっしゃるんですか。

今、多分、資料ないと思います。私も急なことですので、読み上げさせていただきませんか。引き継ぎ事項で、こう書かれて

いるんですね。ユーベルホールは、竣工より19年経過しており、設備の老朽化が進んでいる。これまで毎年小規模な補修を行ってきたが、大規模な改修は行っておらず、特にこの3年間は、ホール自体の存続問題もあり、改修はほとんど行われていない。しかし、設備の老朽化は深刻で、今年度も公演中に何度もトラブルに見舞われ、保守管理のメンテナンス業者から、その改修、更新、必要を指摘されているところである。今後とも、ユーベルホールを維持するためには、最低限度として以下の改修が必要で、これらの改修なしではホールの維持は困難であると。その後、こう書かれているんです。平成25年度より3カ年計画で予算化し、実施していかなければいけない。これは、前町長からの引き継ぎ事項です。

今の町長の答弁ですと、前町長は、こうやって3カ年計画で全面的に総額1億8,400万円ぐらいかけてユーベルホールを全面的に改修しなければやっていけませんよと、そういうお考えなりを持っていたということがわかるんです。

けれども、今の町長の答弁ですと、そういうことではなくて、一部、修理としながら、ユーベルホールを維持させていこうと、そういう見直しに聞こえますけど、いかがでしょうか。

○副議長（小寺正人君）

答弁を求めます。

田中町長。

○町長（田中龍一君）

お答えいたします。

一部というか、まず必要最低限のところから進めていこうと思っております。

以上でございます。

○副議長（小寺正人君）

秋元美智子議員。

○10番（秋元美智子君）

正直、ため息ついちゃいます。私もこの質問をこんなにするつもりはなかったんですね、正直言います。

一部ずつ、ちょっとずつ、ちょっとずつの修理というのは、果たしてホールにとってふさわしいんですかね、そういう修理方法というのが。これは、どなたか参考までにお答え願えたらありがたいんですけども。できたら、教育長、お答え願えたら助かりますが。

○副議長（小寺正人君）

答弁を求めます。

小川教育長。

○教育長（小川照夫君）

お答えいたします。

まず、25項目の中でユーベルホールの扱いについては、一つは、運営費全体を圧縮するという、それからもう一つは、自主事業から連携協力事業に再編をし、毎年度、それを検証していくという、こういうことだったろうと私は思います。

その中で、新町長が誕生されて、各部局のヒアリング等が行われました。教育委員会のほうとしても、その社会教育の中でユーベルホールについては、そういう25項目の中で取り上げられているということ、それから現在の課題として、やはり設備のメンテナンスの面が不安がありますのでという説明をしたところでございます。

それを受けて、町長として、先ほど人命にかかわる問題点が言われましたとおり、ああいう施設を持っていますと、一つは、法的にきちんと守らないといけない。例えば、エレベーターとか消防法などもありますので、それは必ず必要になってきますし、それから舞台というところで、つりものが落下すると危険と、そういうことがあって、今、町長がお答えされたんだと理解しております。

○副議長（小寺正人君）

秋元美智子議員。

○10番（秋元美智子君）

あれは、詳しく書いています、ここに、照明関係ですとか、音響、給排水、空調、消防、昇降機、これらのものをきちっと見直して、あそこを、町長のおっしゃる安全をどうやって維持していくか。それは、たった1カ所のつりものだけで済みますかね。私は、やはりやるんだったら25年、3カ年計画できちっとやるべきだと思います。

ですから、町長がせっかく財政再建25項目を見直しでお考えのようですけども、再度見直した上で、またその報告などをいただけたら助かります。よろしく願います。

○副議長（小寺正人君）

答弁を求めます。

田中町長。

○町長（田中龍一君）

お答えします。

十分、教育委員会とも調整いたしまして、またその25項目、それについて報告させていただきます。

○副議長（小寺正人君）

秋元美智子議員。

○10番（秋元美智子君）

私、今の町長の答弁は、25項目の中のユーベルに関しては、そのようにして教育委員会と話し合っただけで詰めていきたいということで受け取らせていただきました。

ですから、町長の財政再建項目は、25項目のうちユーベルに関しては、そういうふうな形で今後取り組んでいくし、エスカレーターはエスカレーターで、先ほどの答弁をいただきまして、この後、また別途質問させていただきますので、よろしく願います。

入札制度について、ちょっと私、えっと

思ったので、お尋ねさせていただきます。

「透明性の確保や公正な競争を促進させるため、入札制度見直しを行います」とされていますね。この現状の入札制度は、逆に言ったら透明性がなく、公平な競争が行われていないということですか。あえて、こうやってうたっている以上、非常に疑問になりましたので、御答弁願います。

○副議長（小寺正人君）

この際、暫時休憩します。

（午後1時19分 休憩）

（午後1時24分 再開）

○副議長（小寺正人君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

答弁を求めます。

田中町長。

○町長（田中龍一君）

お答えいたします。

こちらで問題としておりますものは、現在、予定価格が例えば事前に公表していると、こういったことにつきまして、その予定価格のところに皆さん張りついてしまうと、予定価格、もしくは最低価格、そういったことがあります。そういう意味で言うと、より公平性ということでは劣るということで思っております。

以上でございます。

○副議長（小寺正人君）

秋元美智子議員。

○10番（秋元美智子君）

全然意味がわからない。それはなぜ問題なんでしょうか。なぜ、これが不透明であり、不公平な入札制度になっちゃうんですか。

この豊能町は、日下町長時代にも入札に絡んだ事件が発生していますね。その当時、たしか日下町長は入札制度を見直しているんですよ。そういった流れの中で来ている

んですよ。

ですから、その透明性の確保や公平な競争ということは、私はこのまちはできているはずだと思うんですけどね。なぜ、今、町長のおっしゃったことが透明につながり、公平につながるのか、お答え願いますでしょうかというか、教えていただけますでしょうか。

○副議長（小寺正人君）

答弁を求めます。

田中町長。

○町長（田中龍一君）

最低価格を公表することによりまして、その値段に集中して、結局、くじ引きで落ちているということがありましたので、そういう意味で言うと、要は公平性に欠けると、競争原理が働いていないということで考えております。

以上でございます。

○副議長（小寺正人君）

秋元美智子議員。

○10番（秋元美智子君）

これ、私もたしか財政の効果か何かのところまで上げていた項目だと思うんですよ。ということは、今のほうがより財政的な効果があるんじゃないでしょうか。むしろ、最低価格を隠したら、値段が上がっていく可能性があるということになりかねませんか。私もちょっとよくわからないんですけども、質問している私自身が。

町長でいいです、町長、お答え願います。

○副議長（小寺正人君）

答弁を求めます。

田中町長。

○町長（田中龍一君）

お答えします。

最低価格に張りつくということは、それ以下にできるという可能性もあるということです。

○副議長（小寺正人君）

秋元美智子議員。

○10番（秋元美智子君）

これ以上聞きません。

やっぱり入札制度なりなんなりということをやはりよく熟知した上で書いていただきたい。

私、ましてここに通告していますので、お願いしますわ。所信表明に書かれている以上、どういうことかなというような思いで聞いていますので、よろしく願います。もうこれはやめときます。

○副議長（小寺正人君）

秋元美智子議員。

○10番（秋元美智子君）

ちょっと時間もなくなりますので、次に入ります。

「市街化調整区域のガイドラインを策定して、民間の商業施設や企業の誘致について考えてまいります」としてはありますが、地区計画のガイドラインは、既に前町長が着手してしまして、たしか少なくともこの3月か4月ぐらいにでき上がるころまで来ていたんじゃないかなと思っています。ですから、もう目の前に策定が来ているわけですね。

ですので、逆にその後、どのような手順で企業誘致を進めていこうとされているのかお尋ねしたいなと思って、この質問を上げさせていただきましたので、御答弁をよろしく願います。

○副議長（小寺正人君）

答弁を求めます。

田中町長。

○町長（田中龍一君）

こちらにつきましては、まずは地区計画のガイドラインが策定されて、その内容について、そういったこの区域ではこういうことができるというような、まず情報発

信を行って行って、それからまた企業誘致ということになるかと思っております。

以上でございます。

○副議長（小寺正人君）

秋元美智子議員。

○10番（秋元美智子君）

一つはありがとうございます。

私、企業誘致というのは、とても難しいことじゃないかなと正直思っているんですね。

ですから、町長、いろんな御経験の中で、その手順的などころをよく御存じなのかなと。例えば、募集するだけなのか、それともみずから企業に出向くのか、いろんな方法がありますけれども、やはりこれのお考え、今から当然かたまって行ってしかるべきことじゃないかなと思って質問させていただきましたので、でき上がり次第、情報という以前に、もうちょっと先のことを教えてください。

○副議長（小寺正人君）

答弁を求めます。

田中町長。

○町長（田中龍一君）

お答えいたします。

これにつきましては、今、検討中ですが、いずれにしても、まず地区計画のガイドラインが定まって、ここの区域でどういうことができるのかということをもまず定めて、それからさまざまな方法で検討していきたいと思っております。

以上でございます。

○副議長（小寺正人君）

秋元美智子議員。

○10番（秋元美智子君）

そのさまざまな方法のさまざまところを聞いたかったんですけども、これも別の機会にまた質問させていただきます。

町長御自身は、大阪市で24年間、まち

づくりに携わってこられたようですけども、実際、企業誘致の経験はお持ちですか。

○副議長（小寺正人君）

答弁を求めます。

田中町長。

○町長（田中龍一君）

お答えいたします。

企業誘致につきましては、コンペという形で企業の募集を行ってやったという経験はございます。

以上でございます。

○副議長（小寺正人君）

秋元美智子議員。

○10番（秋元美智子君）

それは、かつてこの豊能町でもやったことがありますので、今後に期待というか、何と云っていいかわかりませんが、それで、実はここで、4項目に出させていただいた戸知山について質問させていただきます。

昨日、「戸知山については、将来、企業誘致を考えている」と明言されましたね。同じ橋本議員の次の質問に、スポーツ合宿地として活用できないかとの質問に答えて、「そうした企業があれば誘致したい」ともお答えになっているんですね。私は、これちょっと似て非なるものだなと。

というのは、スポーツ合宿地なので、その目的に合ったスポーツ合宿地が先にあって、それに合った企業誘致を考えているのか、企業誘致があれば、スポーツ合宿地以外のものでも何でもいいとお考えなのか、果たしてちょっとどちらなんだろうというふうに疑問を持ちましたので、御答弁願います。

○副議長（小寺正人君）

答弁を求めます。

田中町長。

○町長（田中龍一君）

お答えいたします。

戸知山でまずは企業誘致ということが大事だと思っております、その中の選択肢として、スポーツ合宿地というものをやられる企業があれば、それはそれでいいかというふうに考えております。

以上でございます。

○副議長（小寺正人君）

秋元美智子議員。

○10番（秋元美智子君）

企業誘致が第1で、その後の一つに、そういうスポーツ合宿地のようなものがあるありがたいかなという、要するに企業が第1ですね、どんな企業であれ。あれというのは失礼な言い方ですけど、いろんな企業もありますけれどもね。

きょう、山下議員がいろいろ質問されていました、豊能町の環境云々と。で、あそこは、豊能町の里山として、4年かけて、非常に大変な荒地の中を、議会も行きました、職員も行きました、もちろん町長みずから先頭に立って。非常に時間をかけて手入れして、あそこまで持ってきた山です。足を運んでごらんになったと思います。あれは、あの形で昔からあったもんじゃないんです。4年間、大変な努力して、あの形に持っていったんです。そして、子どもたちがシイタケ狩りや炭焼きや栗拾いが楽しめるようになったらいいなと。つまり、人の入る、手入れする山、里山として、この地域として非常にやっぱり大切なんですね。よく御存じだと思います、大阪の中で里山というものがいかに少なくなっているか。しかも、あれは豊能町の町の所有地の里山ですね。あそこに企業誘致をするというお考えのようですけども、やはりそれはどのようなものでしょうかね。

私は、やはり誘致できる企業があれば何でもという、その主体性のない考えではな

くて、さらにもう一步、この豊能町のまちづくりを考えて、この環境をどのようにして生かすか、そのためにあそこをどのように、戸知山を有効に生かしていくかという、そういう視点の中で考えていただきたいと思うんですけども、いかがですか。

○副議長（小寺正人君）

答弁を求めます。

田中町長。

○町長（田中龍一君）

お答えいたします。

確かに、企業誘致を図るに当たりましては、あそこでのまちづくりというか、条件は付していきたいと思っております。その方針については、また今後検討したいと思っております。

以上でございます。

○副議長（小寺正人君）

秋元美智子議員。

○10番（秋元美智子君）

ぜひまちづくり、あれは貴重な里山だという、町の財産でもあるということで考えていただきたいと思います。企業誘致にこだわらないでくださいということですね、言えば、戸知山での。

もう一つ、ちなみにきょうも問題に出ていましたけれども、大雨の話です。あれは、上でいろんな木を切ったりなんかして、土地の雨を蓄える力がなくなってきた、いろんな災害が起きていますね、御存じのように。戸知山のあの山を伐採したり木を切ってしまった場合、どのような状況になるか、現状、あそこでの雨量がどのくらい超えたら危険な状態になるのか、これもたしかそういうデータなり、そういうものが出ています。そういうふうな安心・安全のまちづくりの観点からも、あの戸知山をいかに有効にしたらいいか。やっぱり、里山として残すべきだと私はそういう結論に達して

いただきたいと思いますので、よろしくお願ひします。

続きまして、エスカレーターについて、ここで質問を出していただきましたので、確認させていただきますけれど、きのうからの答弁を聞いていますと、町長は、この4年間の中で、先々、まだ7年もつけども、エスカレーターは更新する、この方針でよろしいんですね。まず、確認させていただきます。

○副議長（小寺正人君）

答弁を求めます。

田中町長。

○町長（田中龍一君）

お答えいたします。

やはり国の補助金があるうちにということで考えておりますので、いい補助金があれば、この4年間でもやっていきたいと思っております。

○副議長（小寺正人君）

秋元美智子議員。

○10番（秋元美智子君）

このエスカレーター問題というのは、どうこう言うわけじゃないですけど、前町長、非常に誤解を受けましたね。つまり、いみじくも廃止する人、更新する人みたいな、そういうふうな分け方をさせていただきましたけども、そうではなかったということは、田中町長も御存じだと思います。それで、今は改めてその上で補助金があるうちにおっしゃっていますね。

もう一つ、町長のお考えの先の、この補助金ということ考えたとき、私、今回、更新するんだったら、エスカレーターではなくてエレベーターだと思うんです。これからの超高齢化社会、多分、豊能町は、ここ何年か先に、大阪の中で一番の高齢化率を迎えるはずで、半数近くの方が65歳以上。

そういうことを考えたとき、あの階段をおりていく、のぼりしか利用できないエスカレーターであるよりも、やはり上下に動くエレベーターのほうが私は有効だと思うんですね。

ですから、このエスカレーターを平成31年まで稼働できるだけ稼働させて、エレベーターという方針、この考えは、町長、受け入れられませんか、受け入れてもらうことはできますでしょうか。よろしくお願ひします。

○副議長（小寺正人君）

答弁を求めます。

田中町長。

○町長（田中龍一君）

お答えいたします。

エレベーターにつきましては、検討会議の中でも検討されているというふうに見ておりますけれども、その中でも、搬送する能力が低いと。要は、駅から人がおりてきたときに、対応するには、やはりエスカレーターのほうが好ましいということだと考えておりますので、エスカレーターということで考えております。

以上でございます。

○副議長（小寺正人君）

秋元美智子議員。

○10番（秋元美智子君）

検討委員会の検討というのは、26年までに廃止されてしまうということが前提の検討委員会ですよ。町長、間違えないでくださいね。

そしたら、やはり今、働いている方たちができるだけ使いたい、その輸送量ということに視点を置くということは、私は別にあなたが間違ったことではないと思うんです。

ただ、私が伝えたいことは、31年先、このぐらいになってきたら、本当に豊能町

は深刻な超高齢化社会になっていますよと。それであるならば、やはりあの階段をおりていく、町長も御存じでしょう。あの階段をおりていく危険性を高齢の方に体験してもらう、そういうこと以前に、やはりもうエレベーター、これじゃないですかと。31年までエスカレーターを動くだけ動かせて、その後はエレベーターという時代じゃありませんかと言っているんですけどね。検討委員会の検討では、ちょっと検討している時期の話が違いますので、よろしくお願ひします。

○副議長（小寺正人君）

答弁を求めます。

田中町長。

○町長（田中龍一君）

お答えいたします。

やはり、駅を使うことを考えますと、駅に一時期に人が乗りおりするというのがございますので、そういった意味では、エスカレーターのほうがふさわしいのではないかと考えております。

今、必要な方につきましては、恐らく車等で対応されているかとは思ひます。

以上でございます。

○副議長（小寺正人君）

秋元美智子議員。

○10番（秋元美智子君）

町長、これ、エスカレーターは、お年寄りにやさしいまちづくりに出されているんですよ。お年寄りにやさしいと言うならば、やっぱりエレベーターだと思いますけどね。

私、なぜこのエレベーターを言うかと言ひますと、議員になったときから、多くの高齢者の方からお声をいただいているんです。駅から上がるのに、階段じゃなくて、のぼりのエスカレーターがついたのは、とてもうれしいと、だけど実を言うと、年寄りはのぼるよりもおりるほうが辛いんだと、

非常に膝に負担がかかるんだと、何とか下りにならないだろうかと声を随分いただきました。

そして、また働いている方からも、冬、雪が降って凍ったときに、あの階段をおりていくのは、非常に命の危険を感じると、何とかおりていく方法はないだろうかと。

そこで、行政にも交渉しました。エスカレーター、のぼっていただけじゃなくて、あれは下りにも移すことができます。朝だけでも下りにおろすことができませんかということで、行政、考えてくださいました。

しかし、やっぱり皆さん急いで上から将棋倒しになったときに非常に困ると。だから、申しわけないけども、下りは対応できないということを住民の方々に理解していただいたことがあるんです。

やはり、私はそういうことも含めまして、つけかえる、ましてお年寄りにやさしいまちづくり、超高齢化社会を考えたら、エレベーターだと思いますし、選挙のときも、町長、駅のところで見ていたと思ひますよ。年配の方が辛い思いして歩いてきたケースもあったはずですよ。バギーを抱えておりてきた親子もあったはずですよ。どうぞ、そういったことから、エレベーターで考えていただきたいんですけど、検討の余地は全くないんでしょうか。

○副議長（小寺正人君）

答弁を求めます。

田中町長。

○町長（田中龍一君）

お答えします。

あの場所で、一つは、搬送能力の話もありますし、エレベーターをつけるとしても、非常に地理的にも難しいものだと思ひます。

○副議長（小寺正人君）

秋元美智子議員。



○10番（秋元美智子君）

検討していただいた上で、エレベーターやエスカレーターを検討していただいて、エレベーターだって、今、いろんな方法があります。ここにこう張り出したら、こういうふうにつけることもできますという、そういう案もあります、いろいろと。それは行政の方が詳しいはずです。私は、エレベーターを検討していただけますかと、今、町長のそういう検討できない理由を聞いているわけじゃなくて、検討していただけますかと、ぜひしていただきたいとお願いしているんですけどね。

○副議長（小寺正人君）

答弁を求めます。

田中町長。

○町長（田中龍一君）

お答えいたします。

まずは、今、私はエスカレーターの更新がまず大事だと思っておりますので、また今後、それを導入してから、それからまた考えてまいりたいと思っております。

以上でございます。

○副議長（小寺正人君）

秋元美智子議員。

○10番（秋元美智子君）

耳を疑いましたけども、財政再建項目の中のエスカレーターの問題ですよ。町長、エスカレーターを更新した後に、エレベーターを考えてくださるんですか。今の答弁は、そういう答弁でしたけども、よろしいんですか、それで。確認してください。そして、ぜひエレベーターを検討していただきたいです。

○副議長（小寺正人君）

答弁を求めます。

田中町長。

○町長（田中龍一君）

お答えします。

まず、今は私の考えとしては、エスカレーターというふうに考えております。エレベーターについては、まだ先の話だと思っておりますし、まずはエスカレーターということで考えております。

以上でございます。

○副議長（小寺正人君）

秋元美智子議員。

○10番（秋元美智子君）

お年寄りにやさしいまちづくりで上げたという、その期待を裏切らないでください。その上でのエスカレーター、エレベーターを考えていただきたい。これは要望で終わらせます。

ダイオキシン問題につきまして質問させていただきます。

これは、昨日、川上議員がダイオキシン問題に対して質問されておりました。その中で、ダイオキシン高濃度汚染物、この処理は、山で言うなら9合目ちよいまで来た。つまり、そこまで処理が可能になっていたというふうな言葉の表現をされました。これ、このことは、町長、どのようにして受けとめましたか。うそだろうと、まさか、いや、本当だろう、そこまで来たのか、いろんな思いがあったと思います。どのように感じられましたか、お願いいたします。

○副議長（小寺正人君）

答弁を求めます。

田中町長。

○町長（田中龍一君）

お答えいたします。

私としましては、私が知っている範囲では、9合目まで来ているとは思っておりませんでした。

○副議長（小寺正人君）

秋元美智子議員。

○10番（秋元美智子君）

川上議員は9合目、町長はそうではなか

った。いろいろないきさつも聞き、いろんな引き継ぎを受けた上での町長の判断だと思いますが、さきの9月議会の豊能町の議会だよりですね、井川議員が処理に向けて質問されています。そして、そこで前町長はこう答えています。外部委託処理をしようとする場所を探してきたため、なかなかオンサイト、つまり豊能町内での処理に踏み切れなかったが、今、オンサイト処理に向けて、地元の皆様に説明会を開いているところですと答弁されていますね、説明会まで開いていますと。このことにつきまして、どのような引き継ぎがございましたでしょうか、御答弁をお願いします。

○副議長（小寺正人君）

答弁を求めます。

田中町長。

○町長（田中龍一君）

お答えいたします。

今の引き継ぎにつきましては、前町長は、外部委託は困難として、オンサイトでできないかを検討されていると、自治会に説明されていたということございましたけれども、今回の辞任に当たり、検討は白紙に戻したというふうに引き継いでおります。

○副議長（小寺正人君）

秋元美智子議員。

○10番（秋元美智子君）

白紙に戻したと聞かれて、田中町長、その後、どうしようと思いましたが。再度、その自治会に申し入れに行こうと思われましたか。あるいは、そうすべきではないのでしょうか。いかがですか。

○副議長（小寺正人君）

答弁を求めます。

田中町長。

○町長（田中龍一君）

お答えいたします。

この問題につきましては、まずは私だけ

ではなくて、副管理者とも話をして進めることが必要だと思っておりますので、副管理者と話をし、まずは国崎のほうに処理ということで、一度は、2町そろってお願いに行ったということは正式にないというふうに理解しておりますので、まずは国崎のほうにお願いに行こうということで話をしておりました。

以上でございます。

○副議長（小寺正人君）

秋元美智子議員。

○10番（秋元美智子君）

要するに、前町長、前管理者が、地元説明会まで開いてお願いしている状況の中で、白紙に戻しますよと。そうですね。やっぱり、地元の方々に、町長として違う立場になったわけですから、進めることができなくなる。白紙に戻すけど、後を頼みますよという意味合いもあったかもしれません。そのニュアンス、私、わかりません。

ただ、そこまで来ていたら、やはり豊能町の中で、外部委託処理が無理だったから、町内でここまでこぎつきましたよと。田中町長も、この問題がいかに難しいか、十分御存じだったと思いますね、きのうからの答弁を聞いていますと。そしたら、やっぱりそこへまず私は取り組むべきだったんじゃないかと。それをなさずして頑張りますと言われても、あと1年間で行けるのかなと、正直心配なんです。ね。

それと、国崎でというのは、両管理者でおっしゃっていますが、それは国崎で処理することが両者の間で決定した一つの方針に絞ったということで理解させていただいてよろしいでしょうか。

○副議長（小寺正人君）

答弁を求めます。

田中町長。

○町長（田中龍一君）

お答えします。

絞ったというよりは、まずは国崎クリーンセンターのほうへお話ししいこうかということ、絞ったという話ではございません。

○副議長（小寺正人君）

秋元美智子議員。

○10番（秋元美智子君）

前町長も言っていましたね、なかなか外部委託処理からオンサイトに踏み切れなかったと。国崎にお願いに行つて、国崎から次の展開に踏み切れないうまま1年を迎えてしまいますよ。そのことは忠告して申し上げます。

これ、なぜかと言うと、非常に議員たちが触れていますように、毎年、毎年、施設組合に人件費がかかります。3,000万円以上かかると思います。ほかの経費もかかります。

これは、豊能町にとって、能勢町にとっても、大変な税金の無駄遣いなんですね、先へ進まないがために。そのことをよく身にしみて御理解いただきたいと思います。

それと、質問です。豊悠プラザが保健センターと統合になって、ボランティアセンターが動きましたね。それで、このボランティアセンター、住民と協働のまちづくりに向けて、このボランティア活動の拠点づくりにつきまして、現在、保健センター周辺でプレハブを建ててというふうに動いています。そのままの状況で、町長、非常に私はまずいと思っていますので、田中町長の方針、もし今できているようでしたら、お答え願います。

○副議長（小寺正人君）

答弁を求めます。

田中町長。

○町長（田中龍一君）

お答えいたします。

方針というか、一応、今、保健センターと、横に新たに建てる建物で対応するというふうなことで聞いております。

以上でございます。

○副議長（小寺正人君）

秋元美智子議員。

○10番（秋元美智子君）

私はそれで将来行ったらまずいだろうということで質問させていただいたんですが、これは2カ月ですから、すぐに方針というのはなかなか出ないと思いますので、別にいいんですけど、6月に私は、これは行政にどうしますかとお尋ねしましたら、あのあたりで庁舎一元化を含めて考えていきたいと。つまり、一つの庁舎はしっかりした建物、地震の問題云々出ていましたけど、さてその中にボランティアセンターも組み込み、それで、そういった中でも考えていきたいという御答弁をいただいていたので、それ、非常に期待はしたんです。田中町長のほうは、この庁舎一元化、単なる箱物建設にしか映らなかったようですけども、これ1点、やっぱり心にとめていただきたい。

支所の耐震化のこととあわせて、きょう、高橋議員が熱弁を振るっていたように、防災関係ですね、今、豊能町の防災の備品、備蓄品、これ、各地ばらばらに置いてあります。私でさえ、どこに何があるかわからない。発動機はどこにあるのか、何がどこにあるのか、リストも見なくちゃいけない。住民はもっと難しい。それも、やはりそういった倉庫をきちっと固めて、そしてもう一つ、私は、町長、野菜の販売所のことを言っていましたけど、あそこにやはり一つの大きな建物、それなりに見合った建物をつくって、そこにボランティアセンターも入れていく、備蓄倉庫も入れていく、もちろん役所のことともそうですよ、入れていく。そして、多くの人が集まる場所をつくるこ

とによって、野菜が売れる場所にもなると  
思います。

ですから、庁舎一元化というのは、単なる箱物ではないです。これから、防災を含めて、それから耐震化、ボランティアセンターの拠点の今後の育成なども含めまして、ぜひこれ、10年、20年先の豊能町、目先にはお金がかかりますでしょう。だけど、いつ壊れるかわからない。私のような車に乗っていて、そこでいろんなものに修理にお金をかけていくよりは、やっぱり思い切って新しい車、そのときはお金がかかりますけども、やはり新しい車に乗ったほうが経費的にはいいというふうな、そういう行政方針もある、手腕もあるということで、私は期待して、今後、ぜひ心にとめていただきたいと思いますので、よろしく願いいたしますが、お考え、御答弁いかがでしょうか。

○副議長（小寺正人君）

答弁を求めます。

田中町長。

○町長（田中龍一君）

お答えいたします。

私は当面は、今、現在の支所・本庁をと  
いうことで、それぞれやっていきたいとい  
うふうに考えております。

以上でございます。

○副議長（小寺正人君）

秋元美智子議員。

○10番（秋元美智子君）

それは私は否定していません、全然。ただ、この先の豊能町をどういうふうな方向に持っていくかと言ったときには、こういう考え方もあると。防災のこととか、それから町長があれされた野菜の販売、人が集まる場所、それから住民との協働のまちづくりですか、そういうことを含めて考えていただきたいと言っただけですので、

よろしく申し上げます。

○副議長（小寺正人君）

関連質問ございますか。

（「なし」の声あり）

○副議長（小寺正人君）

以上で、無所属の会の一般質問を終わります。

この際、暫時休憩といたします。

再開は、2時10分といたします。

（午後1時55分 休憩）

（午後2時10分 再開）

○議長（福岡邦彬君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

次に、緑豊クラブの一般質問を行います。

持ち時間は、質問及び答弁を合わせて40分とします。

西岡義克議員を指名いたします。

西岡義克議員。

○13番（西岡義克君）

ただいま議長より御指名をいただきました緑豊クラブの西岡でございます。これから一般質問をさせていただきます。

もうあと2番でありまして、ゴルフで言ったら、メーカーの一つ手前ということで、ブービー賞かなということで、いい商品が出るもんやから、いい答えが出るかなとも思いますが、ちょっと心もとないという気もいたします。

まずは、先般の9月の町長選挙において御当選、まことにおめでとうでございます。

今回の町長選挙は、現職と新人候補の一騎打ちということで、かつてないまれに見る激しい選挙となったわけでありまして。そして、ダブルスコアに近い堂々たる結果を出したわけでございます。このことは、旧態依然を変えたいという住民の皆さん方の熱い思いの勝利であったと思うわけでございます。

田中新町長におかれましては、その点を

重く受けとめていただきまして、激せず、騒がず、粛々と長期の展望に立ってのまちづくりをお願いいたしたいと思うわけでございます。

そこで、まずまちづくりのための町長の所信表明についてお尋ねをしたいと思いません。

通告順の最初でございますけれども、総人件費の圧縮費について、これは所信表明の3ページ、この3ページのところに、また総人件費の圧縮も実施してまいりたいと考えていますを、まいりますということでございまして、それで私は、やっぱり長期的に考えて目標設定を住民さんに知らせたほうがいいのではないかなと思いますが、目標設定を何%ぐらいにやっているのか、まずお聞かせ願いたいと思いません。

○議長（福岡邦彬君）

答弁を求めます。

田中町長。

○町長（田中龍一君）

ただいまの西岡議員の質問に対して、お答えいたします。

まず、そこに載っておりますように、まず私、率先して私の給料の20%を削減したところでございます。

今後につきましては、人事院勧告も踏まえながら、今後の状況、いろいろ踏まえて、また考えてまいりたいと思っております。

以上でございます。

○議長（福岡邦彬君）

西岡義克議員。

○13番（西岡義克君）

私が聞いているのは、目標設定を何%に、将来的でもいいですから、やはり将来的にまちづくりをするに当たって、その人件費を何%ぐらいに圧縮するつもりなのかということで、できるできないは別にして、何%を目標にしているかということを知りたい

ているんです。

○議長（福岡邦彬君）

答弁を求めます。

田中町長。

○町長（田中龍一君）

お答えいたします。

現段階では、目標は定めておりません。まだ、これから状況を見ながら、まずは私が率先して20%削減しているというところでございます。

以上でございます。

○議長（福岡邦彬君）

西岡義克議員。

○13番（西岡義克君）

目標設定が今のところわからないということで、しかしそれは住民さんに対してやっぱり設定すべきだろうと思っておりますので、今後、考えていただきたいと思いません。

それと、職員数の見直しについてでありますけれども、これは5ページですね。5ページに、先ほど山下議員のほうからも質問があったようでありますけれども、職員数の見直しと適正配置ということで、適正な人事を把握し、適正を超える人員については、委託事業の直営実施云々と書いております。

そして、そういう環境整備をしていくということでもありますけれども、この職員数の見直しについては、配置転換で見直すのか、それとも削減をするのか、どちらですか。もし削減なら、具体的な策はあるんですか、お聞かせください。

○議長（福岡邦彬君）

答弁を求めます。

田中町長。

○町長（田中龍一君）

お答えいたします。

まずは、職員の見直しに関しましては、

26年度に事業評価等をしていきます。また、これから全課について、私、直接見て回りたいと思っておりますので、そういった事情も踏まえながら、配置転換が必要なところは配置転換、また削減が必要なところは削減ということでやってまいりたいと思います。

以上でございます。

○議長（福岡邦彬君）

西岡義克議員。

○13番（西岡義克君）

今の御答弁でしたら、配置転換も全体的に見直しながらやっていくということなんですけれども、それでは一つお聞きしたいんですけれども、適正規模ということなんですけれども、例えば町長は、今、2万2,000人のまちとして、適正な職員数は何人ぐらいだと思いですか。

○議長（福岡邦彬君）

答弁を求めます。

田中町長。

○町長（田中龍一君）

西岡議員の質問についてお答えいたします。

これから事業評価をしながら検討してまいりたいと思っております。ただ、それによってまた答えは変わってくるかもしれませんが、今、私が思っておりますのは、約200人ぐらいかなと思っております。

これにつきましては、今後、事業評価等、それぞれの仕事を見てから、最終的には考えていきたいと思っております。

以上でございます。

○議長（福岡邦彬君）

西岡義克議員。

○13番（西岡義克君）

それでは、大体200人ぐらいと思っておられるので、それに向けて、いろいろ適正規模の職員数を精査しながらやっていた

だきたいと思っております。

それから、2番目に行きたいと思っております。

第4次総合計画の実行ということでございますけれども、まちづくりは、やはり長期の展望に立って短期の実践をしていくと。その長期の展望に立ったうちの10年計画が昨年度から実施されていっております。

豊能町の活性化プログラムが平成23年度から25年の間に、今、重点施策として三つの柱を基本に、これからプログラムを組んでいこうと、実行していこうということで、平成24年度には、この重点施策の三つの柱、教育・子育てのまちづくり、そして定住化の促進、それと農林観光の振興、この三つを重点施策として豊能町のまちづくりの10年計画の重点施策にしようということであります。

前回の質問で、このうちの教育・子育てのまちづくりは、かなり前向きに進んでおるんですけれども、定住化施策と農林観光の振興、この二つはなかなか進んでいないということございまして、その点をひとつお聞かせ願いたいんですけれども、町長も先ほどのエスカレーターの問題云々がありましたけれども、私は定住化施策は、この特集の豊能町の活性化プログラムの中には入っていないんですけれども、交通体系の再構築というのがあります。私は、交通体系の再構築とエスカレーター、この二つは、私は定住化施策でやるべきであると思うんですけれども、豊能町の活性化に向けて町長のお考えはどうですか。

○議長（福岡邦彬君）

答弁を求めます。

田中町長。

○町長（田中龍一君）

お答えいたします。

私も定住化ということで、エスカレーターは大事な話だと思っておりますし、交通

問題も大事だと思っております。

以上でございます。

○議長（福岡邦彬君）

西岡義克議員。

○13番（西岡義克君）

そこで、定住化施策で、町長は、Uターンということは言っておられます。いわゆる、こちらに住んでいて、外へ出られた。そういう方も、豊能町はもっと魅力のあるまちであるということで、Uターン現象が起きるだろうということで、Uターン施策ということで、今、具体的にいろいろ先ほどから言われておりますけれども、もう一つ、Iターン施策も必要ではないかなと。つまり、Uターンではなくて、Iターン。つまり、魅力あるから豊能町に来ようと、そういうことも大事であろうと。その点では、やっぱりこのエスカレーター問題というのは、非常に外から見ても魅力あるものだろうと。

もう一つは、やはり豊能町は教育ナンバーワンのまちということで、御承知のように、小学校も中学校も非常に大阪府下では高いレベルにあります。中学校はナンバーワンであり、小学校はナンバーツーというようになっております。この辺も、Iターン施策の形として取り組んでいかなければならないと思うんですけれども、特に先ほどから問題になっておりますエスカレーター問題でありますけれども、これは私は、町長は、国の予算があるうちにという話が出ておりますけれども、私、これ、耐用年数はどうなんですか、もう終わったんですか、終わっていないんですか。

○議長（福岡邦彬君）

答弁を求めます。

田中町長。

○町長（田中龍一君）

お答えいたします。

法的な耐用年数という意味では、15年ということですので、経過しております。終わっております。

○議長（福岡邦彬君）

西岡義克議員。

○13番（西岡義克君）

耐用年数が終わっているということは、いつ何が起きてもおかしくないという状況であります。部品はあるけれども、しかしいつ故障するかもわからないと。そういう状況の中で、町長が言われるように、私はこの定住化施策として、今の時点でしたら、国の予算があると。ですから、私は前向きに取り組んでほしいと思っておりますけれども、再度、お答えをいただきたいと思えます。

○議長（福岡邦彬君）

答弁を求めます。

田中町長。

○町長（田中龍一君）

お答えします。

私も前向きに、国の予算が、補助金があるうちに取り組んでまいりたいと思っております。

以上でございます。

○議長（福岡邦彬君）

西岡義克議員。

○13番（西岡義克君）

そういうことで、私はやはり町の活性化に向けて、前向きに定住化施策、そして人口導入という形でやっていただきたいと思えます。

次に、交通施策の問題もそうなんですけれども、交通施策は、町長、一般質問の中でお答えになったように、交通特別委員会とともに連携をとりながらやるということでもありますけれども、一つ、私はこの今までの交通施策の見直しについては、非常に住民さんに対するヒアリングが少ないなど。

ですから、住民さんに対するヒアリングの徹底と、その分析が必要であろうと思うんですけれども、町長のお考えはどうか。

○議長（福岡邦彬君）

答弁を求めます。

田中町長。

○町長（田中龍一君）

お答えいたします。

議員のおっしゃるとおり、住民の意見をやはりしっかり聞いていく必要があるかと思っております。

ただ、まずは過去に実施した豊能町の巡回バス等の利用に関するアンケート結果と、これがありますので、まずはこういったものを見ながら考えていきます。

それと、今後は、住民の意見もどういった形で反映していくかということについては、検討してまいりたいと思っております。

以上でございます。

○議長（福岡邦彬君）

西岡義克議員。

○13番（西岡義克君）

ヒアリングの徹底と分析が私は必須条件であると思うんですけれども、やはりそのいろんな情報分析の中でやるのが、これからの交通施策を前向きに実のあるものにできるものだと思っておりますので、これは行政としてきちっとやっていっていただきたいと思っております。

それと、次の農林観光の振興でありますけれども、これ、道の駅構想の取り組みでありますけれども、私はやっぱりこれ、前は全く失敗しております、頓挫しております。

これは、やはりPT、プロジェクトチームを立ち上げる必要があると思うんですけれども、町長はどういうふうにご考えておられますか。

○議長（福岡邦彬君）

答弁を求めます。

田中町長。

○町長（田中龍一君）

お答えいたします。

そうですね、プロジェクトチーム、要は、前回うまくいかなかったのは、結局は、農家の協力が得られなかったということで、直接、生産されている方が余り入ってなかったように思いますので、そういった方の意見も聞けるような形で、プロジェクトチームになるのか、どういった形になるかわかりませんが、実際、ここに出店される方等を勘案した形で、実現に向けて考えるべきものだと思っております。

以上でございます。

○議長（福岡邦彬君）

西岡義克議員。

○13番（西岡義克君）

私は、町がプロジェクトチームをつくるとして、これはやっぱり一般の方との協働が必要であろうと思っております。そこで、やっぱり職員と住民との共同作業が必要であろうと。

ですから、例えば町の職員のある人を選んで、そのもとに一般の人に入っていて、それで結果を出してほしいということで、これは一つの職員の評価制度の形になるんじゃないかなと。それで成功した場合は、その職員に対していろいろ評価すると、そういう私は実践職員評価制度みたいな形をつくって、役所と、それと住民さんが一体となってまちづくりを進める一端になるんじゃないかと思うんですけれども、こういう形もあると思うんですが、町長はどういうふうにお考えですか、何かいい方法はありますか。

○議長（福岡邦彬君）

答弁を求めます。

田中町長。



○町長（田中龍一君）

お答えいたします。

やはり、議員がおっしゃっているように、これから事業を進めていくに当たって、住民との協働という観点は大事故かと思っておりますので、そういった意味で、やはり職員と協働で事業実現に向けて功績の評価が認められるような場合であれば、それはそれで一定認めていく必要があるかと思っております。

ただ、そういった評価の方法というのは非常に難しいですけれども、何らかの形で考慮すべきことではないかと思っております。

以上でございます。

○議長（福岡邦彬君）

西岡義克議員。

○13番（西岡義克君）

私もそういう競争の原理でもないけれども、やっぱり切磋琢磨の原則というのは非常に大事だと思うんですね。お互いに頑張っていて、頑張る職員を育て上げると、町の中でお互いに頑張ると、そして町の外でも頑張るということで、お互いに実践評価制度というのは非常におもしろいんじゃないかなと思っておりますので、町長も今後、ひとつ参考にしていただいたらいいんじゃないかと思っております。

次に、教育・子育てのまちづくりということで、これ、先ほど山下議員のほうからは、通学路のあそこの水の問題が出ておりましたけれども、上でいろいろ開発行為みたいなものがされておるということで、その関係もあるんじゃないかということをおっしゃっておりますが、それと同時に、私はあの通学路のダンプ走行については、緊急に対策を打たなければならないと思うんです。

危険予知可能なものは、やっぱり事前の対応を前提としなければならないと思うんですよ。事前の対応を間違えて事後の適用

なんかをすれば、子どもが犠牲になると。ですから、危ないものは、事前に全部取り除くというのが本来の形であります。

前回も一般質問しましたが、どうも教育委員会のほうが任されているようでありましてけれども、私はこれは町全体の問題だと思うんです。

ですから、建設もそうですし、全体が、これは何とか子どもが被害に遭わないように何か考えてほしいんですけれども、その辺の対応はどうか。

○議長（福岡邦彬君）

答弁を求めます。

桑田教育次長。

○教育次長（桑田良彦君）

お答えいたします。

ダンプカーの件でございます。

現在、教育委員会といたしましては、現場管理業者と児童・生徒の登校・下校時の警備員の配置、学校行事等の教育活動等に支障になる場合、騒音発生の自粛、車両通行に伴う砂ぼこりの防止対策、工事区域外への土砂流出防止安全策等の安全対策、周辺環境対策について、毎年、協議書を交わして行っております。

ことしの9月以降でございますが、小学校の主な登校時間に、7時45分から8時15分までの30分間、ダンプカーの自粛を行っているところです。

以上です。

○議長（福岡邦彬君）

西岡義克議員。

○13番（西岡義克君）

この前も言ったと思うんですけども、8時15分というのは、まだ危ないですね。私は、今、朝6時20分から信号のところに立って、子ども相手に挨拶運動をしております。一番最後の中学生の子どもが行くのが8時16分ぐらいです。遅いのは、1

8分ぐらいに、おっちゃん、遅なつたわと走っていきよる。それが、希望ヶ丘の2丁目から走っていても、どう見ても10分か15分はかかるでしょう。そうすると、この8時15分というのは、全くそれでは間に合わんわけです。私も建築関係をやっております。大型ダンプは大体9時以降ですよ、入るのは。常識です、これは。

ですから、朝だけでも、最低9時という形にしなければ、必ず問題が起きます。必ず起きます。起きたときにどうするか、子ども犠牲になるわけです。先ほどから皆さんおっしゃっているように、子どもは豊能町の宝ですよ。将来を託する、我々は子どもに託して、豊能町に生きていくということです。

ですから、そういうことで、何とかこれ9時以後に入るような形に設定してほしいと思うんですけれども、どうですか。

○議長（福岡邦彬君）

答弁を求めます。

桑田教育次長。

○教育次長（桑田良彦君）

お答えいたします。

今現在、先ほど答弁させていただいたような時間のダンプカーの自粛をしております。

この件に関しましては、教育委員会と学校現場管理業者ということで、頻繁に話し合いを持って、あくまでも教育委員会は、学校の安全、子どもたちの安全性を第一に考えなければならないというところしておりますが、これは今までのいきさつでございますが、現状の道路でございますが、過去に地権者との協議により新設されたものであること等ございますので、あるいは山の上で計画性に違法のない場合、通行をとめることはできないというところでございます。

今後とも、できるだけ子どもの安全性に留意しまして、交渉といたしますか、その時間帯に関しては、話し合いは進めていきたいと考えております。

以上です。

○議長（福岡邦彬君）

西岡義克議員。

○13番（西岡義克君）

これ、もう期限を設定したほうがいいと思います。私は一番最初に、その許可がどういう形で許可されたのか、あの上で何をするのかというのがはっきり知りませんが、多分、ああいうことをするとは聞いていなかったんじゃないかなど。ですから、もうこの時点で、期限を、1年だったら1年に限定してやってください。でないと、あれが次々奥へ奥へ入っていきます。それは、その都度、危険が来るわけでありますから、やっぱり子どもは我々大人が守るべきものであります。

ですから、豊能町を挙げて子どもの育成ということを言っているわけですから、全庁挙げてやっていただきたいと思うんですけれども、町長、どうですか。

○議長（福岡邦彬君）

答弁を求めます。

田中町長。

○町長（田中龍一君）

お答えいたします。

これからまた検討してまいりたいと思います。

以上でございます。

○議長（福岡邦彬君）

西岡義克議員。

○13番（西岡義克君）

検討していくこと、前向きに検討していただきたいということでお願いしておきます。

それでは、その次でありますけれども、

やはり学校教育については、教育委員会、かなり頑張っていていただいております。基礎・基本の徹底ということで、私は習慣づけというのが非常に肝心だなと思っております。

私の大好きな先生で、安岡正篤という先生がおりますけれども、子どもは人生のあけぼのである、太陽である。清く明るく健やかに育てることを旨とするということをやっております。その中で、やはり子どもの基本的なこと、基礎・基本の徹底と、これは習慣づけが肝心であると、天性にまさるものは、よい習慣であるとも言っております。

そういう点で、今、この先ほどの活性化プログラムの中で、教育の中で、挨拶ができる、読書が大好き、みずから学ぶと、こういうことを挙げておりますけれども、豊能町が育てたい子ども像ということであります。

その中で、豊能町は本当に皆さんが来てびっくりするほど、子どもがよく挨拶をすとお褒めをいただいております。

ただ、私、このごろ立っておりますと、昔はというか、ここ二、三年でしょう、去年ぐらいからかな、子どもがふだんなら朝早く4・5人が担当だと走っていく子がおります。これは、学校に先に行って、来る子どもを迎えて挨拶をします。ところが、このごろ全くそれがない。聞いてみると、もうそれがないというんですね。何でそんなことになっとるのかなと、おかしいなと、これ、どないなっているのかなと思っておりますけれども、教育長、聞いていますか。

○議長（福岡邦彬君）

答弁を求めます。

小川教育長。

○教育長（小川照夫君）

お答えいたします。

今、変わったという話は、ちょっと私も承知しておりませんが、ただ東のほうですと、東能勢小学校と中学校の取り組みの中で、児童会・生徒会が毎月水曜日をそういう指定日に当ててということは取り組んでおりますし、今お尋ねの件については、申しわけございませんが、承知しておりませんので。

○議長（福岡邦彬君）

西岡義克議員。

○13番（西岡義克君）

以前は、これ東から始まったんですね。今、西でもやっています。西は、かなり積極的に盛り上がってきているなという気がしておりますけれども、私はこれはやっぱり校長先生の権威の問題と違うかなと、校長先生で変わるなど、僕は思っております。それで、僕は多分、これ、校長先生に原因があるんじゃないかなと。

校長の権威の低下ということで、それは調べてもらったらわかりますけれども、いわゆるどうも教育の権威と言うと、制度的な権威と勘違いされていると。つまり、校長とか、教育長とか、町長もそうですけれども、議員もそうだけれども、そういういわゆる名刺の名前書きみたいなものの権威、そうじゃなくて、やっぱり人格的な権威を欠いている校長が多いんじゃないかなと。

つまり、人格的な権威というのは、服従させるのではなくて、従順の教育、それができる。そのためには、みずからの人格的な権威を高揚しなければならないというふうに思うんですけれども、やっぱり人生の目標を持つことが基本であろうと思うんですけれども、このごろ徳育が非常に減退しておると。ですから、教師、大人、親もそうですけれども、やはり人生のあり方とか生き方の教育、この辺が必要ではないかな

と。

高橋議員の質問がなかったんですけども、学校、土曜日を教育しようやないかという話が、質問の内容があったんですけども、していなかったんですけども、私はやっぱり5日制という問題が出て、やっぱり子どもの学力が落ちたなど。学力というのは、何も机の上に座ってやるだけじゃないと思うんですね。だから、5日制、私は当時、大阪府のPTAの会長をしていましたけれども、そのときに、子どもは6日制で大人は5日制でもいいと言ったんです。

これは、大人の5日制というのは、労働問題です。週休2日制の話です。大人が休んだら、大人も学校に行って、子どもと一緒に勉強したらいいと私は思ってたんです。

ですから、知・徳・体のバランスが欠けている、特に徳育が欠けているから、土曜日の1日を親子で徳育を学ぶ、そういう形に持っていったらいいと思うんですけども、教育長のお考えはどうですか。

○議長（福岡邦彬君）

答弁を求めます。

小川教育長。

○教育長（小川照夫君）

お答えいたします。

土曜日につきましては、議員も御承知のとおり、平成14年度から今の5日制になって、ことしで10年を迎えるわけであり、もともとのスタートが、日本人は勤勉であるというところから来ておりますので、それに学校が参加したということだろうと思います。

問題は、その受け皿がきちんとされなかったために、学力、あるいは体力も含めて低下したのではないかとよく言われているんですが、私はやはりもうそろそろ個人的には学校教育法を改正して、今のままでは、休業日になっていきますので、運用の中でし

かできない。そういう制度も、今回の選挙でどうなるかわかりませんが、皆さんが教育改革、教育再生ということをおっしゃるので、そんなことで、少しやっぱり10年たったところで考える時期には来ているのかなと。

ただ、豊能町としての取り組みとしては、土曜日は月2回までしかできませんので、今の運用では。その中で、できるだけ保護者や地域の人たちが来れる、そういう参観日、そういうことで、その中で、例えば人権教育とか道徳をやってはどうかという提案はしておりますし、それから学校行事として学習発表会とか運動会をできるだけ土曜日に当てることによって、皆さんが参加できると。そういうことで、工夫はしているところでございます。

○議長（福岡邦彬君）

西岡義克議員。

○13番（西岡義克君）

例えば親子で論語の教室をするとか、そういうのも一つおもしろいんじゃないかなと思っております。

生涯学習社会になっておりますので、一生涯学び続けるという社会であります。大人も子ども一つになって学んで、いいまちづくりに向けてそういう勉強をしたら一番いいんじゃないかなと思っております。

「少にして学べば、壮にしてなす。壮にして学べば、老いて衰えず。老いて学べば、死して朽ちず」ということで、やっぱり我々は過去から学び、現在を生き、そして未来につなぐという形が、これから豊能町、大阪府、そしてひいては日本再生という形につながるんじゃないかなと思っております。

これからのまちづくりに向けて、町長におきまして、これからやはり人格的権威ということも一つ勉強していただいたい

いんじゃないかなと。リーダーということも質問に出ておりましたけれども、私はリーダーはやっぱり使命感を持ってまちづくりを進めていただきたいと思います。

まちづくりというのは、先ほども言いましたように、長期の展望に立って短期の実践を行うということであります。冒頭申し上げましたように、町長はダブルスコアに近い結果を出したわけであります。山下議員が言ったように、住民の期待感、それは期待度を示すものであります。田中町長に寄せる期待感は、大なるものがあります。その期待を裏切ってはなりません。若干49歳でありますから、その若さで青雲の志を立て行政の世界から政界に身を転じた覚悟を忘れることなく、使命感を持ってまちづくりを進めていただきたいと思います。

そして、初心を忘れることなく、おごらず、激せず、肅々と長期の展望に立って、夢を持って住民の皆さんに対する公約実現に向けて邁進していただくことを進言いたしまして、私の一般質問を終わります。ありがとうございます。

○議長（福岡邦彬君）

以上で、緑豊クラブの一般質問を終わります。

暫時休憩いたします。

（午後2時48分 休憩）

（午後2時50分 再開）

○議長（福岡邦彬君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

次に、日本共産党の一般質問を行います。

持ち時間は、質問及び答弁を合わせて40分とします。

高尾靖子議員を指名いたします。

高尾靖子議員。

○12番（高尾靖子君）

日本共産党の高尾靖子でございます。御指名を受けましたので、一般質問させてい

たきます。

2日目の最後の一般質問でございますが、答弁も大分出たところでございますけれども、私のほうから再度質問させていただきますので、どうか簡潔な御答弁でよろしくお願いいたします。

通告順に一般質問をさせていただきます。

所信表明についてお伺いしておりますが、これはホームページにも掲載されて、全住民の方にはもう知らされているものでございますので、その点を踏まえて答弁をいただきたいと思えます。

エスカレーター問題は、何名かの議員がされましたけれども、角度を変えてお伺いしたいと思えます。

町長もおっしゃっているように、多くの住民の移動手段である光風台駅前エスカレーター、これは「住民サービスにとって必要なまちづくり」と述べられておられます。私もそう思うわけでございますが、エスカレーターのメンテナンス部品の在庫が平成31年度までであるということで、今、既存の代替案検討会議は休止中という格好になっております。その間、故障が起きれば、直ちに新光風台・光風台の自治会、それと豊能町、この三者が集まって検討会議を再開するというふうに、この間、答弁をいただけてまいりました。そのもとで、先日来、町長は更新すると、取り組まれるということをご答弁されております。

しかし、これは耐用年数が経過しておりますので、いつ、メンテナンスの部品があるといっても、わからないわけですので、その点、先ほど補助金があるので、それで更新していきたいということですが、補助金はもう確認がとれているのかどうか、きちっとそれがどれぐらいの負担が補助金としてされていくものなのか、その点の把握をされているのか、お聞きいたします。

○議長（福岡邦彬君）

答弁を求めます。

田中町長。

○町長（田中龍一君）

お答えします。

補助金につきましては、25年で社会資本整備総合交付金が終わりますので、一応、今後またどう変わるかわかりませんということもありまして、来年度はどういったことをするのかということについて、基本的な検討をして、それからどういう補助金が見えるのかということも勘案して、これから進めてまいりたいと思っております。

以上でございます。

○議長（福岡邦彬君）

高尾靖子議員。

○12番（高尾靖子君）

今お答えいただいたのは、25年度に入ってからということで、それは確認がまだとれていないということなんですね、補助金としての確実な確認ですね、これでできるという。それで、25年度に予算を上げていくということなんですか、お尋ねいたします。

○議長（福岡邦彬君）

答弁を求めます。

田中町長。

○町長（田中龍一君）

お答えいたします。

さきの交付金が25年で一旦終わるということがありますので、今後、これ、本体に補助金・交付金を充てるに当たっては、これからどういう補助金ができるかというのはまだわかりませんので、来年はどこまでどの程度やるのかとか、また来年度になれば補助金・交付金のメニューなんかも出てまいりますので、そういったことを来年度検討してまいりたいと思っております。

以上でございます。

○議長（福岡邦彬君）

高尾靖子議員。

○12番（高尾靖子君）

25年度で切れるというお話なんです、じゃあそれまでにきちっとした手続をしなければ、これ、お金が出てこない、そういう問題だと思うんですね。25年度にそういう補助金制度があるのかどうかはまだわからないんですか、お聞きいたします。

○議長（福岡邦彬君）

答弁を求めます。

田中町長。

○町長（田中龍一君）

お答えします。

25年までは今の交付金はあるとなっておりますけれども、これをやるに当たりましては、やはり基本設計・実施設計、それと整備ということになりますので、単年度では整備は当然できません。ですので、今後、新たな補助金を、どういったものが見えるのかということを検討してまいります。

以上でございます。

○議長（福岡邦彬君）

高尾靖子議員。

○12番（高尾靖子君）

ちょっとどのように進めるという手続が、これ、できるのかどうかというところで私は今御答弁いただいたのが、わからないんですけれども、新たな補助金制度があるのかもまだ明確になっていないですね。というのは、今、選挙中で、どの政権がまた政府になるかということになってくるといことなんでしょうけれども、そうすると、その間に、このエスカレーターの故障がもしあったならば、それはどのように対応していかれるということになるでしょうか、お聞きします。

○議長（福岡邦彬君）

答弁を求めます。

田中町長。

○町長（田中龍一君）

お答えします。

もし故障が起これば、やはり部品等を交換して修繕するという形になります。

以上でございます。

○議長（福岡邦彬君）

高尾靖子議員。

○12番（高尾靖子君）

故障で、部品ではもう動かないという場合だってあると思うんですよね。それさえあればということで、きちっと直るということにはならない、そういう事態も起こり得ると私は思っているんです。

老朽化というのは、そういうもんだと思いますので、その点、直ちに三者が話し合っ、て、きちっとどういう方向性を持っていくのかというところは、やはりきちっとした話し合いをしていくべきだと思いますが、その点はいかがですか。

○議長（福岡邦彬君）

答弁を求めます。

田中町長。

○町長（田中龍一君）

お答えいたします。

今、日立ビルメンテナンス等からも来ていますのは、製造中止から5年から10年程度については、ストックの部品があるというふうに聞いておりますので、この間であれば修理は可能かと思っております。

○議長（福岡邦彬君）

暫時休憩いたします。

（午後3時00分 休憩）

（午後3時08分 再開）

○議長（福岡邦彬君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

先ほどの高尾靖子議員の質問に対して答弁を求めます。

田中町長。

○町長（田中龍一君）

お答えいたします。

エスカレーターは更新します。基本的に、補助金があれば使ってまいります。

以上でございます。

○議長（福岡邦彬君）

高尾靖子議員。

○12番（高尾靖子君）

じゃあ、再度、質問します。

補助金の制度がない場合は、どうされるんですか。そのまま更新するというので、その経費は出される、予算はつけられるということなんですか。そのところを確認させてもらいます。

○議長（福岡邦彬君）

答弁を求めます。

田中町長。

○町長（田中龍一君）

お答えします。

補助金がない場合でも、それは更新してまいりたいと思っております。

○議長（福岡邦彬君）

高尾靖子議員。

○12番（高尾靖子君）

町長は繰り返しおっしゃっていますので、これ、後の質問ができなくなりますので、このほうでおさめますけれども、やはりメンテナンスが確実に31年度末までできるというのであれば、今の町の財政面から考えたら、今のメンテナンスはできるという、日立製作所のそのことを信じて、31年度末までは延長・存続できるということで私はいいい思っているんですけれども、補助金制度があれば、すぐに更新するということをおっしゃったわけですね、なくともするとおっしゃいましたけれども、その点は、今後の状況も見据えて、ぜひいい方向で出してください。そのことを言うしかないと思いますので、では、次に行きます。

東西バスの利用者数、収支等の実績は、30%前後と横ばいの数値が続いているわけですが、地域公共交通会議で今後協議していくということで、今の経過は、そういうことになっております。前町長がそのように答弁されてきました。田中町長も、超高齢化社会であることを踏まえて、「お年寄りにやさしい交通網の整備充実を考えていく」と、この所信表明で述べておられます。

まちの魅力である東西バスの存続、この存続と同時に、高齢者にやさしいということに重点を置いておられるので、先ほども質問がありましたが、巡回バスの復活なんかをお考えになっておられるのかなというふうに考えるわけですけど、その点はいかがなのか、お尋ねします。

○議長（福岡邦彬君）

答弁を求めます。

田中町長。

○町長（田中龍一君）

お答えいたします。

以前の巡回バスは、経費の割には利用者が少なかったということから見直された経緯がございます。今後、議員御指摘のように、ますます高齢者の方がふえるため、それに対応する公共交通が求められると考えています。

お年寄りにやさしい交通網の整備充実に向けた具体的な運行形態や内容について、議会の交通特別委員会の意見を聞きながら、地域公共交通会議で検討を行ってまいりたいと思っております。

以上でございます。

○議長（福岡邦彬君）

高尾靖子議員。

○12番（高尾靖子君）

地域公共交通会議で、ぜひ田中町長のお考え、お年寄りにやさしい交通網の整備、

ここを重点的に訴えられて、やはり東西バスの存続または巡回バスの復活か、どちらかわかりませんが、とにかく東西が交流できる東西バスの存続、このことを私はお願いしたいと思っておりますが、その地域公共交通会議の場で町としてのお考えを述べられるかどうか、それと交通特別委員会で町長としてはどのように訴えようと思っておられるのか、町の姿勢として存続をしようということに、これの今のお考えでしたら、そうなると思うんですけども、高齢者にやさしい交通網ということですので、その点はいかがでしょうか。

○議長（福岡邦彬君）

答弁を求めます。

田中町長。

○町長（田中龍一君）

お答えいたします。

これからやはり豊能町も高齢化が進んでまいりますので、住民の皆様の御意見も聞きながら、ニーズに合ったようなものができればいいかと思っております。

以上でございます。

○議長（福岡邦彬君）

高尾靖子議員。

○12番（高尾靖子君）

ニーズに合ったということで、ぜひそれは積極的に進めていただきたいと思います。地域公共交通会議では、老人会の代表の方、住民の自治会の代表の方、3名ほどが出席されているんですけども、欠席されている場合もあるというふうに聞きますので、その点、十分お話を聞いて、吸い上げてください。

それと同時に、交通特別委員会でも、田中町長の今考えておられることをぜひ主張して、存続していただきたいと思います。そのことをお願いできますか。

○議長（福岡邦彬君）



答弁を求めます。

田中町長。

○町長（田中龍一君）

お答えいたします。

やはりこれから高齢化社会を迎えていきますので、そういったものは必要だということと考えております。

以上でございます。

○議長（福岡邦彬君）

高尾靖子議員。

○12番（高尾靖子君）

ぜひ公約を所信表明の中でおっしゃっていますので、前向き、積極的に進めていただきたいと思います。

次に移ります。

「総人件費の圧縮を実施する」と述べられておりますけれども、どのような圧縮をしていくということになるのか、お尋ねいたします。

○議長（福岡邦彬君）

答弁を求めます。

田中町長。

○町長（田中龍一君）

お答えいたします。

一つは、総人件費の圧縮ということで、まず私の人件費をカットしたということがございまして、あとそれ以外にも、事業評価等を通じまして、またそれぞれの課の状況なども見ながら考えてまいりたいと思っております。

以上でございます。

○議長（福岡邦彬君）

高尾靖子議員。

○12番（高尾靖子君）

臨時議会のときもちょっと私お聞きしたんですけれども、事業の評価で人件費を削減するというふうを受けとめたらいいのでしょうか。事業評価というのは、それぞれの部署で仕事が違いますので、どうい

ころをもって評価して、圧縮しようと。圧縮というのは、人数を削減するのか、経費を削減するという圧縮なのか、どちらなんですか。

○議長（福岡邦彬君）

答弁を求めます。

田中町長。

○町長（田中龍一君）

お答えいたします。

一つは、人数ということも考えております。今、これから退職される方もいらっしゃる。そこで、厳しいですけれども、新規採用を少しやめながら、そういうことによって人件費を減らしていくということも考えられますし、そういったことが例えば考えられます。

以上でございます。

○議長（福岡邦彬君）

高尾靖子議員。

○12番（高尾靖子君）

毎年退職者の方が何名かおられますので、自然減というふうになってくると思うんですけれども、今、大変な経済情勢ですので、どこでもリストラとか、そういうのが行われているような状況ですけれども、ここではそういうことは一切あってはならないというふうに思っておりますが、その自然減で行くということのほうをお進めになるのか、あえて肩たたきでやめてくださいというふうにはできないものだと思うんですけれども、その点の仕事のことで評価して人数削減するという、そういうことにはならないということで、私、しないということで考えてよろしいですか。

○議長（福岡邦彬君）

答弁を求めます。

田中町長。

○町長（田中龍一君）

お答えいたします。

一つは、今現在、豊能町では勸奨退職ということで、事前に個人の意思で退職していただいているということもございます。

もう一つの話で、先ほどおっしゃったことにつきまして、今、勸奨退職、自然減、そういったことで今は考えております。

以上でございます。

○議長（福岡邦彬君）

高尾靖子議員。

○12番（高尾靖子君）

わかりました。

自然減で行くのが、本来の自治体のあるべきやり方だと思います。

それでは、そのところを確認できましたので、それでは次に行きます。

全庁を貫く4つの考え方ということで、4つ、住民サービス、二つ目が経費の削減、三つ目は歳入の増加、4、働きやすい効率的な職場の実現についての意識改革について、大きな課題であり、バランスがとれないということをおられるわけなんですけれども、この4つの実現というのは、相当なエネルギーが要ると思いますし、本当に総力で頑張らないとできないし、バランスが崩れたら大変矛盾が起こってくるというような内容になると思いますけれども、こうした4つのバランスについては、どういうふうに持っていくということになるのか、この内容が個々に4つありますので、わかりませんが、それはもうお考えになっておられますか。

○議長（福岡邦彬君）

答弁を求めます。

田中町長。

○町長（田中龍一君）

お答えいたします。

今上げました住民サービスの徹底、経費の削減、歳入の増加、働きやすい効率的な職場の実現というのは、いずれの職場にも

共通してできることだと思っておりますので、バランスというか、それぞれに対してそれぞれの職場が取り組んでいただくと、こういった意識で取り組んでいただくということで考えております。

以上でございます。

○議長（福岡邦彬君）

高尾靖子議員。

○12番（高尾靖子君）

ここの4つのところのバランスを持って皆さんの力強い仕事を進めるならば、やはりこれがよく進めていくことができるのか、できないのかで、まちづくりの明暗というんでしょうか、これが浮き彫りになるのではないかと考えております。

経費の削減で住民サービスはできるのかなということが、私はすごくそのところを懸念しておりますが、町長の任期中にこれを実現していくということをお考えなのかどうか、お尋ねします。

○議長（福岡邦彬君）

答弁を求めます。

田中町長。

○町長（田中龍一君）

お答えします。

この4つの項目につきましては、今後、庁内にも張り出して、それを意識しながら仕事をしていただくということで考えておりますので、この4つの項目については、当然、私の任期中に取り組んでまいりたいと思っております。

以上でございます。

○議長（福岡邦彬君）

高尾靖子議員。

○12番（高尾靖子君）

ぜひとも新風といいますか、そういうところで頑張っていただいて、豊能町の行財政を進めていっていただきたいと思いますが、それでは次に行きます。

職員数の見直しと適正配置、これも先ほどの圧縮というところで、ある程度似たような感じもするんですけれども、その適正配置で委託事業の直営実施、住民の方のNPOとの協働事業で行える環境整備を進めるということは、どういう内容なんですか。

○議長（福岡邦彬君）

答弁を求めます。

田中町長。

○町長（田中龍一君）

お答えいたします。

こちらにつきましては、先ほど来申していますように、例えば事業評価等をした場合に、事業評価、またそれぞれの職場を見た場合に、どれだけの人数が必要か、適正かということがもしわかれば、それ以外の余った人間といいますか、そこで適正以上と判断した人員に関しては、例えば委託事業を直営事業で実施してもらうとか、もしくはこれから豊能町の事業を進めていく場合に、やはり町だけで進めていくには、なかなかいろんな面で苦しい面がありますので、住民の皆様と協働で事業を進めていくということも今後必ず必要になってきますので、その協働事業を進めていくに当たって、職員の方が住民の方に一緒に入っていたくという形で働いていただくというように考えております。

以上でございます。

○議長（福岡邦彬君）

高尾靖子議員。

○12番（高尾靖子君）

直営事業という、ちょっとよくわからないんですが、例えば具体的にはどういうことがあるのでしょうか。

○議長（福岡邦彬君）

答弁を求めます。

田中町長。

○町長（田中龍一君）

お答えします。

例えば、何かある事業を業者さんに委託していた事業があった場合に、それがもし職員の方でもできるような内容であれば、その職員の方がその事業をすれば、委託に出していた委託費が浮くというようなことでございます。

以上でございます。

○議長（福岡邦彬君）

高尾靖子議員。

○12番（高尾靖子君）

これは、職員の方のそういう向き不向きというのが随分出てくると思いますし、そのことによって、適正で行えるかどうかというところをきちっと見きわめることができるのでしょうか。その点はどのように、今、余った職員というんですか、そういう言い方は、ちょっと現在、おかしい言い方だと思うんですけれども、それ、どういうふうにお考えでしょうか。

○議長（福岡邦彬君）

答弁を求めます。

田中町長。

○町長（田中龍一君）

お答えします。

先ほど余ったというのは、ちょっとごめんなさい、私の表現がおかしかったので、例えばこの職場で、今、5人働いておられたと。客観的にいろんな要素を見た場合に、4人でもいけるんじゃないかといったときに、1人の方がほかの作業ができるという意味合いでございます。

以上でございます。

○議長（福岡邦彬君）

高尾靖子議員。

○12番（高尾靖子君）

これからのことなので、余り追及してもちょっと御無理なのかなと思いますけれど

も、やはりそのところは十分課の方と詰めて、部長、課長、皆含めて、十分話し合わないと、これは職員さんにも、やはりこうした営業というのを急に回されたとしても、大変、適切に配置ができたと言えることにはならないと思いますので、その点は、やはり職員さんを生かせる、そういう、おっしゃっているように、風通しのいいまちづくり、また職員さんが生き生きと仕事ができる町政ということでおっしゃっておりますので、職員さんをそこで適正に配置したつもりが、そこに全く適応されないというか、合わない部署になっているというようなこともあると思いますのでね、営業となればね。やはり、営業というのは、利益を追求するということになると思うんですけども、そういうことですよ、直営実施というのは。そういうことも含めてですか、その辺、ちょっとお聞きします。

○議長（福岡邦彬君）

答弁を求めます。

田中町長。

○町長（田中龍一君）

お答えいたします。

まず、委託事業というのは、営業と違いますか、先ほど5人で働いていたところで、もし4人でやっていけると。その1人の方の力で、例えば来年度、こういった、この委託事業というのがどういうものかあれですけれども、例えば入力作業というのを委託したとしたときに、これを外部に委託するのではなくて、この方が入力するとか、そういった意味合いでございます。

それと、あとは住民の皆様と協働事業を行うときにも、やはり住民の皆様と職員の方が一緒になって話を進めていくということもありますから、そういったところに積極的に入っていただいて仕事を進めていただくとか、そういったことを想定し

ております。

以上でございます。

○議長（福岡邦彬君）

高尾靖子議員。

○12番（高尾靖子君）

大変難しい問題でもあると思います。よくいけば、本当にNPOの方たちと委託事業として頑張れるということも言えると思うんですけども、その点は十分、職場内の皆さんと話し合っていて決めていただきたいと思います。

職員を本当に生かせる、そういうところでの町長の力が出せる場所だと思いますので、よろしく願います。

その次に行きます。

教育施策と子育て支援拡充を述べておられますけれども、次代を担う子どもたちの医療費助成、未来への投資であり、若い子育て、家庭のUターンを呼び込めるまちづくりにできるのではないかとこのように思うわけですけれども、子どもの医療費を中学校卒業まで拡充をするというお考えは、町長としてはどうですか、お尋ねいたします。

○議長（福岡邦彬君）

答弁を求めます。

田中町長。

○町長（田中龍一君）

お答えいたします。

議員がおっしゃっておられますように、子育て支援策として、入院の医療費助成を中学3年までとする制度の拡充の実施に向けては、検討しているところでございます。

以上でございます。

○議長（福岡邦彬君）

高尾靖子議員。

○12番（高尾靖子君）

ぜひその検討は、実施に向けての検討としていただきたいと思います。

今、大阪府下で中学校卒業ということでの自治体、助成しているところは、14自治体です。小学校卒業までというのが一番多くて、18自治体になっているんですけども、あとは就学前という、小学校卒業まではもうどこも普通になってきているわけですけども、中学校卒業、これは豊能町は本当に大阪府の端、北のほうになっております。そういうところの住みよい環境、教育環境もいいというところを、ぜひこのところもPRしながら、子育てもなかなかやるなど、支援もやっているなどというところで、Uターンの若手の方も呼び込めるんじゃないかと思っておりますので、ぜひともこれは実施に向けて頑張ってくださいと思います。

次、これは一つお願いでございます。

子育ての支援でもう一つですけども、ときわ台には公園が少ないと言われておまして、若い方も少しUターンで親御さんのところの近くに住んでいる方も結構今ふえているんですけども、その点で、公園が欲しいという要望が寄せられておりますけれども、そういうお考えは今はどうでしょうか。お考えがあるのかどうか、ちょっとお聞かせください。

○議長（福岡邦彬君）

答弁を求めます。

川上建設環境部長。

○建設環境部長（川上和博君）

お答えします。

議員のおっしゃっているのは、町内の都市公園という位置づけの公園だと思っておりますが、本町にありましては、ほとんどが開発による帰属公園のみでありまして、今後の見込みといたしましては、ときわ台のみならず、新たな公園の整備を行うという予定は持っておりません。

以上でございます。

○議長（福岡邦彬君）

高尾靖子議員。

○12番（高尾靖子君）

持っておりますと言っていたかというふうに思いましたが、せんとなりまして、残念ですが、今後は、やはり子育て支援にも充実・拡充をおっしゃっている田中町長に期待をしたいと思っておりますので、その点、また検討していただきたいと思っております。

次に行きます。

地域防災計画の見直しも、先ほど来からありました。南海トラフの巨大地震による被害想定が示されたことで見直しということになってきておるんですけども、福井県下の、今、地震、各断層とか、いろいろ言われてきまして、大変危険な状態じゃないかということも言われてきております。

そこで、滋賀県下、京都府など、もし地震が起きたならば、放射能汚染が琵琶湖にまで届くということも言われております。

そうした予測図が出ておまして、もう御存じだと思いますが、大阪府下の水がめである琵琶湖が放射能で汚染されるということも想定されるという話ですので、本町にとっては、とてもこれは安心して生活できないというような状況に追い込まれることになるんですけども、そうしたもとの、自治体の長として住民の安全な生活を守る立場から、原発即時停止を申し入れるお考えはありますか、お尋ねします。

○議長（福岡邦彬君）

答弁を求めます。

田中町長。

○町長（田中龍一君）

お答えいたします。

原子力発電をやめることは、御存じのように、電気料金の値上げとか、CO<sub>2</sub>の増大、

地球の温暖化、そういったことを促すという、こういうことにもつながりますので、一概に撤退がいいとは言い切れないと思っております。特に申し入れるという考えは今のところはございません。

以上でございます。

○議長（福岡邦彬君）

高尾靖子議員。

○12番（高尾靖子君）

今、総選挙が行われておりますけれども、各党、これが争点になって、大変激しい論戦が続けられておりますけれども、いまだに放射能汚染、被曝に苦しむ作業員の方、また放射能のホットスポットということが次々とまた出てきておまして、過酷な避難生活、また自宅に帰れない、そういう状況があるわけですが、原発について、ドイツはこの福島原発を見て、これは大変だということで、即時、原発廃止を決めました。こういう大きなドイツがこういうことを決断したというのは、すごいことだと思うんですね。

だから、放射能というのは、どこの国であつてもやっぱり危険ですし、福島原発の事故によって海流がずっと流れていって、カナダのほうまでたくさんのごみが届いたというのがあるように、海流はそのように世界に回っているわけですよ。だから、いずれはそういう汚染が世界中に渡って、食料なんかの危険にさらされる、人間の人体にも危険が迫ってくるというものでございます。

そういうことで、ドイツは再生エネルギー、可能エネルギーに変換していっております。これによって、すごく電力を効果的に上げているということで、雇用も年間、11年度は前年より1万3,200人増で、38万1,600人も雇用されているというようなことが新聞報道でされております。

そして、温室効果ガスのCO<sub>2</sub>の発生も、11年には、年間1億3,000万トン削減することができたと、こういうことにも貢献できるということが新聞紙上にも報道されていることから、ぜひこれはここだけの話ではありませんけれども、全国的にやはり危険にさらされるということで、ぜひ廃止する方向で一度検討していただきたいと思っております。

長になった立場として、やはり責任ある立場になられたということですので、それはちょっと期待しておきたいと思っております。

それでは、次に学校給食の実施について、どのように方式をとられたのか、お尋ねしたいと思います。

○議長（福岡邦彬君）

答弁を求めます。

小川教育長、手短にお願いします。

○教育長（小川照夫君）

お答えいたします。

教育委員会といたしましては、25年度に予算を計上して、26年度4月1日にデリバリー方式で今のところ考えているところでございます。これから細部については詰めていきたいと思っております。

○議長（福岡邦彬君）

高尾靖子議員。

○12番（高尾靖子君）

ありがとうございます。

これ、TPPに参加すれば、大変いろんな遺伝子組み換え問題、農薬問題が出てきますので、その点、豊能町のお米なども使えなくなってしまうんじゃないかと、そういうことを懸念しておりますが。

○議長（福岡邦彬君）

以上で、日本共産党の一般質問を終わります。

以上で、一般質問を終わります。

この一般質問の本会議の終わりに当たり、

議長として一言申し上げます。

町長は、この一般質問の答えの中で、しばしば町長に就任以来2カ月しかたっていないということを言及されました。しかし、これでは新町長は、世の中で言う新入社員ではありません。住民の安心・安全を守るために、就任した日からその自覚と責任を持たなければならないと思います。そうじゃなければ、住民の安心・安全は守れないと思います。しっかり自覚していただくようお願い申し上げます。

次に、エスカレーター問題でございますが、前町長との10月12日の引き継ぐべき引継書の中に、本日の本会議の一般質問に出ましたように、エスカレーターの問題は、平成30年度に行う必要がある。平成28年度予算要求、平成29年度業者委託、平成30年度更新のスケジュールとなりますと明確に前町長と新町長は引き継がれております。

この案は、この豊能町の建設課の判こを押している問題があります。この問題について、昨日からいろいろ迷走されておりますので、これについて、どのようにエスカレーターについてこれらを踏まえて位置づけられるか、もう一度、理事者側で慎重な御議論をいただき、しっかりとした確たる方針を、いずれお会いするときに、現方針を決めていただきたいと思いますようお願い申し上げます。

次に、議員の皆様にお願ひ申し上げます。

議員必携の中に、一般質問ではよく使われる言葉で、極めて不適切な表現については、十分注意して臨むべきであると書かれております。

例えばの話ですが、町長さん、回答に対して、きのうは回答とおっしゃってました。答えに対してありがとうございます等々の御発言もありました。また、一般質

問の中で要望やお願いという、慎むべき言葉もなっておりますので、ぜひとも今、活性化特別委員会でやっております議員基本条例の中にも、そういう形で盛り込んでいただきたいと思いますが、必ず次の一般質問では、このような問題について十分御吟味いただきますようお願い申し上げ、本日の日程を終わらせていただきます。

以上をもって本日の日程は全部終了いたしました。

本日は、これをもって散会いたします。

次回は、12月20日午後1時より会議を開きます。

2日間にわたり、どうも御苦労さんでございました。

散会 午後3時40分

本日の会議に付された事件は次のとおりである。

一般質問



以上、会議の次第を記し、これを証するためここに署名する。

平成 年 月 日署名

豊能町議会 議長  
副議長

署名議員 6番

同 7番